

8
2025

日本消防



- 「山火事など世界災害」国際会議を開催
- ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」好評放送中！
- 「消防車両等国際援助事業」に係る更新車両提供のお願い

□ 絵 ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」好評放送中！

巻頭言 「消防団員の確保と活動環境の整備のための取組」

.....	(公財)静岡県消防協会 会長	松浦 文信	1
消防大学校消防団長科が来訪	(公財)日本消防協会・総務省消防庁	消防大学校	3
日消の動き 新日消会館、間もなく1年です。	(公財)日本消防協会 会長	秋本 敏文	4
「山火事など世界災害」国際会議の開催	(公財)日本消防協会	5	
ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」出演者紹介	(公財)日本消防協会	12	
第26回全国女性消防操法大会 オリジナル記念Tシャツ	(公財)日本消防協会 総務部	16	
特別表彰「まとい」を受賞して 「地域に密着した消防団を目指して」	南越消防組合 越前市消防団 団長	高橋 則夫	17
東西南北（大阪府）「絆と使命 松原市消防団の魅力」	松原市消防団 団長	芝池 優	19
東西南北（滋賀県）「時代の変遷に対応する消防団像を目指して～地域の安全・安心のために～」	湖南市消防団 団長	吉田 真二	21
東西南北（長崎県）「再生からの成長」	川棚町消防団 団長	村上 勝喜	23
シンフォニー（島根県）「女性ならではの心配り」	浜田市消防団 団本部 女性分団 分団長	金崎 智子	25
災害活動報告 令和7年大船渡市大規模林野火災に伴う大船渡市消防団の活動について	大船渡市消防団 消防団長	大田 昌広	27
ぼうさいこくたい2025 in 新潟 令和7年9月6日・7日開催	(公財)日本消防協会 國際部	29	
「消防車両等国際援助事業」に係る更新車両提供のお願い	(公財)日本消防協会 國際部	31	
インドネシア共和国への「消防車両等国際援助事業」援助車両の引渡し式を開催	(公財)日本消防協会 國際部	33	
令和7年度消防育英会奨学生懇談会を開催	(公財)消防育英会	35	
岩手県大船渡市における林野火災に対する消防機関の活動について	総務省消防庁 特殊災害室・広域応援室	37	
あなたの命を守るマイナ救急 マイナ救急に関するお知らせ	総務省消防庁 救急企画室	39	
「第30回防災まちづくり大賞」の事例募集	総務省消防庁 地域防災室	41	
第73回全国消防技術者会議の開催について(ご案内)	消防庁 消防研究センター	42	
うちの名物団員	大阪府、滋賀県、和歌山県、島根県、長崎県、熊本県	43	
うちの団のPR 市民の安心・安全のために、あらゆる災害に対応できる組織づくりを目指して	熊本県 上天草市 上天草市消防団 団長	山辺 満	45
消防団の広場(和歌山県) ~「地域防災の要」として~	和歌山市消防団 団長	青木 秀行	46

編集後記

表紙写真説明

松原市の象徴である「松原市役所」と市の花「バラ」

松原市の「松」は、市章に描かれている松の葉に由来し、「バラ」は市の花として制定されており、日本の木である松と西洋の花であるバラを組み合わせることで、松原市を世界に発展させていくという目標が込められています。

写真提供者：大阪府松原市

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 好評放送中！ (公財)日本消防協会

(12頁～15頁に掲載)



卷頭言

「消防団員の確保と活動環境の整備のための取組」

(公財)静岡県消防協会 会長 松浦 文信



昨年は、元日に発生した能登半島地震に始まり、8月には「南海トラフ地震臨時情報」の発表、台風第10号の影響による豪雨被害など、地域防災の重大さを強く認識する災害が続きました。

被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

静岡県プロフィール

静岡県は日本のほぼ中央に位置し、太平洋に面して東西155キロメートル、南北118キロメートルの距離、7,777平方キロメートルの面積を有しています。海や山、湖などバラエティに富んだ自然は、日本の豊かな風土の縮図ともいえます。

静岡県消防協会の概要

静岡県消防協会は、昭和25年5月に設立し、平成25年4月から公益財団法人として活動しています。私は平成19年4月から藤枝市消防団長を務め、平成30年5月に第9代の静岡県消防協会会长に就任し、現在8年目になります。



蓮華寺池公園藤棚

本県の消防団は、各市町に1団の構成で35団あります。消防団は地域ごとに支部を構成し、支部は東・中・西の3つの消防連絡協議会を構成しており、全体では、3消防連絡協議会、10支部、35団の構成となっています。

県消防操法大会や県消防大会、県慰靈祭など各種行事の企画・運営は、県協会とともに東・中・西の3消防連絡協議会が輪番で行っているのも静岡県消防協会の大きな特徴です。

消防団活動応援事業所に対する減税

本県では、昭和60年当時、約26,000人いた消防団員が、令和6年には約16,600人まで減少しており、地域防災の要である消防団員への一層の理解と支援が求められています。

かつて消防団員は、自営業者が中心となっていましたが、社会環境の変化に伴い、今では全体の約80%がサラリーマン団員として消防団活動に従事しています。

本県では、平成24年4月に、議員提案により、消防団が活動しやすい環境整備や消防団員確保を促進するため、「消防団の活動に協力する事業所等を応援する県税の特例に関する条例」が制定され、本年3月には5回目の期限延長が認められました。

本条例では、「消防団協力事業所表示制度」の認定を受けた場合、事業税の2分の1に相当する額を控除するもので、最大100万円の事業税の税額控除を受けることができます。

令和6年4月現在、約1,040の事業所が表示制度の認定を受け、そのうち282の事業所で控除が認められ、合計で約1億5,600万円

もの控除実績がありました。

本条例による消防団員の活動環境の整備は団員確保の下支えになっています。

県消防操法大会の開催方法の見直し

昨年度開催した第38回静岡県消防操法大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、5年ぶりの開催となりました。大会では、県内、東・中・西の3地域から選出された、ポンプ車操法3隊、小型ポンプ操法3隊の計6隊が、日頃の訓練の成果を存分に発揮し消防操法の技術を競い合いました。

本大会は、出場選手の負担軽減を図るため、出場隊を各10隊から3隊へ削減したほか、厳しい暑さに備えるため、熱中症対策を徹底し、開会・閉会式を簡素化して午前中で終了するなど、規模を縮小して開催しました。

競技の結果、ポンプ車操法の部では湖西市消防団が初優勝を果たし、小型ポンプ操法の部では沼津市消防団が優勝しました。湖西市消防団は、昨年10月に宮城県利府町で開催された第30回全国消防操法大会へ出場しました。

開催時期については、本県では、昭和44年度から隔年で全国大会の前年に開催してきましたが、消防団員の負担軽減を図るため、令和6年度からは同年開催とし、7月に開催しました。開催後、熱中症アラート発表中に開催するのは避けた方がいいという理由で、令和8年度は一月早い6月に開催することとし、令和9年度からは前年開催に戻し、涼しくなる11月に開催することになりました。

準中型自動車免許等の取得支援

本協会では、道路交通法の改正により、平成29年3月から準中型自動車免許が新設されたことに伴い、令和元年度に制定した「準中型自動車免許等取得補助金交付要綱」に基づき、消防団員の免許等の取得に対する補助を行っています。

本要綱による補助対象者は、準中型自動車免許等に係る補助制度が施行されている市町

の消防団に所属する者で、所持する運転免許では所属する分団の消防車両を運転できない者としています。

補助の対象は、準中型・中型自動車免許の取得、準中型自動車免許の5トン限定の解除、各自動車免許のAT限定の解除に要する経費とし、補助率は3分の1、補助上限額は8万円又は市町の補助額としています。補助対象者数は年々増加し、令和6年度の補助金額は、19市町、71人で約378万円となっています。

本補助制度の円滑な運営と周知を図ることにより、消防団員を支援するとともに、団員確保対策の一助となっています。

女性消防団員の活動支援

本県の女性消防団員数は、令和6年10月1日現在、464人と毎年少しづつですが増加しております、35団中31団に女性消防団員が在籍しています。

本県では、平成30年2月に静岡県女性消防団員連絡協議会を設立し、年2回、避難所運営等をテーマに研修会を開催しています。

避難所生活を送る中で、様々な課題が浮き彫りになっております。安全で安心な避難所生活を送るためにには、女性の視点が必要であることは言うまでもありません。

災害発生時には、女性消防団員が避難所運営に携わっていけるようになればと思います。

最後に

このほか、団員やその家族が割引を受けられる「消防団応援の店制度」の導入や報酬等の待遇の改善など、団員のやりがいを高める取組や機能別団員制度活用による女性や学生への入団促進など効果的な取組について、全市町へ普及を図っています。

県協会では、引き続き各市町と連携して消防団員の確保と活動環境の整備を図り、消防団の充実強化に努めてまいります。

消防大学校消防団長科が来訪

(公財)日本消防協会・総務省消防庁 消防大学校

令和7年7月30日(水)、消防大学校消防団長科第87期生28名が日本消防協会を訪問されました。団長の方々は、同協会の秋本会長から「消防団幹部のあり方」と題して、近年の地球環境変化を背景とする災害の様相変化に合わせた消防防災体制充実の必要性、消防団員確保対策の重要性等の講義を受けた後、全国消防殉職者慰靈碑の参拝、日本消防防災情報センターの見学等を行っていただきました。



虎ノ門ヒルズ側玄関前での記念写真



14階屋上 全国消防殉職者慰靈碑



1階 日本消防防災情報センター

新日消会館、間もなく1年です。

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

多くの方々のご協力を頂いて昨年8月に竣工し、入居団体の引越しなどを経て、オープン後間もなく1年を迎えます。この間、全国の消防団の皆さんにもご来訪頂き、ご覧頂いていますし、いくつもの公式イベントを開催しました。

ニッショーホールは、公式イベントだけでなく、各界の一般の皆さんにもご活用頂くようになってきています。都心の便利な所にある1,000席のホールで、音響も居心地もよいということで人気も上昇しています。多くの方々にご利用頂くことは会館経営上もありがたいのですが、同時に、一般の方々に日本消防防災情報センターをご覧頂いて消防についてのご理解を深めて頂く機会にもなりますので、これからも利用拡大へのPRなどに努めなければなりません。

そして、少し時間がかかりましたが、地下1階に中華料理店がオープンしましたので、お食事も便利になりました。

公式イベントは、既にいろいろな機会にご報告していますが、これも多くの方々のご協力を頂いて、何とか無事に開催させて頂いています。いろいろありますが、11月29日の自治体消防75周年記念大会には、天皇陛下のほか、石破総理、衆議院と参議院の議長、最高裁長官、総務大臣など大変な方々のご臨席を頂き、厳粛、盛大に開催することができました。新会館オープンの記念イベントにもなったと思います。また、地域防災力充実大会では、これまでと若干異なり民間企業や団体の方にその活動の発展拡大による地域防災力充実へのご貢献を発表して頂くなど有意義な大会にして頂きました。

そして、令和7年度に入りますは、7月2日、「山火事など世界災害」国際会議を、世界の主要7カ国と国際消防団体のご参加を頂いて、それぞれのご活動状況を発表して頂き、さらに意見交換をして頂きました。今年に入って、日本でも大船渡市で大規模な山火事が発生していますので、ご参考にして頂ける内容があったと思います。これからもひきつづき地域総合防災力の充実につながるイベントを開催する予定です。

1階の日本消防防災情報センターは、多くの方々に興味をもってご覧頂いていると思いますが、これからさらに充実させる方向でいろいろ考えなければならないでしょう。さしあたり、小画面でご覧頂いている国内各地の消防防災活動の映像につきましては、全国各県から、住民の皆さんの多彩な活動などを含む映像をさらにご提供頂くようにお願いしていますが、大型画面をこれからどのように活用するか、国際会議などの状況をご覧頂く機会は用意できるかなど検討しなければならないでしょう。

そのようなことを考えていますと、全国の幅広い消防関係の方々、「消防人」の方々のご来訪、ご意見は益々大事だなと思われます。6階の「消防人たまり場」はもっと活用して頂けるように気をつけなければならぬとも思ってしまいます。

新会館の活用については、さらに多くの方々のご意見も頂きながら努力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

「山火事など世界災害」国際会議の開催

(公財)日本消防協会

世界各国でさまざまな災害が相次いで発生している中、我が国でも、特に近年はこれまでと異なる災害が相次いでおり、これらへの対応が消防にとって重要な課題となっておりますことから、世界主要7カ国(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ポルトガル、イギリス、アメリカ)の消防機関のトップの方々、及びCTIF(国際消防救助協会)総裁を招聘し、令和7年7月2日(水)午後1時から新日本消防会館のニッショーホールにおいて「山火事など世界災害」国際会議を開催させていただきました。

開会は、主催者挨拶として日本消防協会会长の秋本敏文から、「これまでの人類の歴史の中で、世界各地、さまざまな災害、事故の発生を体験しており、特に最近は、地球環境の変化や社会経済の変化を反映しているのか、これまでと様相が異なるさまざまな大規模な災害が各地で発生していること、そして、その都度、各国の消防はそれぞれの地域の状況に応じながら、地域の皆さんの安全確保のため力を尽くしておられるが、なかなか容易ではないこと、そのような状況を背景としながら、この度の、日本における総合的な消防の中核拠点完成を契機として、世界各国における近年の災害発生状況、消防の活動状況に関する情報の交流を行い、世界的な動向を把握するとともに、これからからの災害発生防止、発生時の消防活動のあり方について意見交換を行う機会を設けることとした。」旨の挨拶を述べ、最後に、この国際会議の開催にご協力いただいた関係の皆様方に対する感謝を述べました。



村上誠一郎 総務大臣

ご来賓のご挨拶は、総務大臣の村上誠一郎様から、「山火事など世界災害」国際会議開催の祝意と海外からの参加の皆様に対する歓迎のお言葉をいただき、さらに、ご参加いただいた皆様に対して、地域の安全・安心の確保のためにご尽力をいただいていることに敬意を表されました。また、米国やカナダなど各地で甚大な山火事被害が発生していることに対するお見舞いを述べられ、6月にカナダで開催されたG7カナナスキスサミットにおいても山火事がテーマの一つとされ、石破総理大臣から日本においても山火事にかかる消防体制装備の充実などの対策強化を行い、カナナスキス山火事憲章に沿って各国とも連携、協力していく決意が述べられたことのご報告がありました。

我が国は世界有数の災害大国であり、更に首都直下地震や南海トラフ地震といった巨大地震も想定されており、総務省消防庁においても全国消防職員、消防団員の皆様と力を合わせ、大規模火災時に出動する緊急消防救援隊の体制強化、消防団を中心とした消防防災力の向上、消防分野におけるDX、新技術の研究開発の推進など、更なる消防防災力の充実強化に全力で取り組んでいる旨のご挨拶をいただきました。



秋本敏文 日本消防協会会长

第1部 災害への対応状況発表



マイケル・ロケット氏

カナダ義勇消防協会会長

カナダには約123,000人の消防士と5,650人の森林消防士がいます。123,000人の消防士のうち87,000人がボランティアです。2023年の山火事では、日本の国土面積の約46%に当たる1,720万haの森林が焼失し、世界12カ国から支援を受けました。人的影響では2025年には4万人以上が避難しています。今年は既に428の建物が焼失しており、そのほとんどが住宅です。大規模な山火事はカナダ全土、米国に深刻な大気汚染をもたらし、煙はヨーロッパにも達し、地球温暖化の状況を悪化させています。気候変動とその緊急性ですが、カナダでは世界平均の2倍の速さで温暖化が進行しており、火災シーズンは乾燥が続き、雷による火災が増加しており、焼失面積の8割が雷が原因です。2023年には火災によるCO2排出量が世界の航空業界全体の年間排出量を上回りました。気候変動の進行により森林火災の頻度が増加しており、緊急にその対応と緩和が必要です。非常に状況が悪化した際には、連邦支援を受けて、カナダ空軍を派遣していただき、航空機から水を投下しています。これは



CL415という航空機で、水面を滑走して水を汲みますが、6,000 ℥の水を搭載し火災に投下します。

森林火災の予防と緩和対策としては、消防士の訓練と装備に3億4,600万ドル、衛星による火災検出に1億7,000万ドルと、予算が増加しました。

火災は発生した州や準州が最初に発見し、これを評価して対応しますが、各州には独自の森林火災管理機関があり、自治体消防や森林消防を含む地方の消防隊を派遣し、航空機、ヘリコプター、ブルドーザーなど必要な装備を使用し、火災禁止令や避難命令を発令し、外部支援が必要かどうかを判断します。

また、州や準州が消防力不足に陥った場合、カナダ森林火災連携センターに支援を要請します。隣接する州や国内の他の地域、更には国際的な支援が必要となります。気候変動は私たちを苦しめており、更なる協力ができるよう努力していかなければなりません。



クリストフ・マルシャル氏

フランス消防協会副会長

フランスの消防は日本の「県」に相当する「県(デパートマン)」単位で構成されており、約25万人の消防士がいますが、そのうち20万人以上がボランティアです。43,000人が職業消防士で、13,000人が軍所属の消防士で、全員が同じ制服を着用し、同じ訓練を受け、同じ任務を担い、密接に連携しており、区別はありません。森林火災に対応するためには空中消火部隊も必要であり、フランスもカナダと同様に水をすくって消火する航空機を保有しています。この水上機は12機が稼働中であり、その他1万ℓの水を運ぶことができる多目的航空機が4機あり、小型機が4機、ヘリコプターが45機ありますが、全てフランス国家の所有です。2000年当時のフランスではフランス南部や地中海沿岸部や南西部で火災が発生していましたが、火災の発生地域が毎年50kmずつ北上しており、気候変動により火災の範囲が北へ拡大し、火災シーズンも長期化しています。2022年には7万ha以上が焼失しました。フランスの法律では森林火災を管理し、制御不能にならないようにするために幾つかの原則があります。重要なのは「指揮の統一」です。指揮官は一人だけ、地元の消防署長が全ての火災対応を指揮します。都市火災でも森林火災でも指揮官は一人です。通信も一つの無線ネットワークで統一されており、誰もが指揮官を認識しており議論の余地がない体制になっています。外部支援があっても指揮官は一人です。



予防的な対応として、乾燥した日や風の強い日には森林火災の気象予報に基づいて、多くの部隊を現場に配置します。火災がなくとも航空機を飛ばして火災の初期段階で対応できるようにしています。火災が初期に制御できなければ、フランスでは、指揮体制、通信ネットワークが統一されているため、消防士をどこでも即戦力として動員できます。

フランスの森林火災対策のモデルが優れている点は、①指揮の統一、②ボランティアとプロの強力な統合、③空と地上の連携の良さ（航空部隊も消防指揮官が指揮）、④ヨーロッパレベルでの国際協力（欧州民間防衛メカニズム）です。地域防災力をボランティアで強化し、国際協力も強化していく必要があります。



カール・ハイント・バンセ氏

ドイツ消防協会会長

ドイツの消防体制は、職業消防士は35,000人、ボランティア消防士は100万人います。また、34,000人の産業消防士があり、30万人の青少年消防隊員がいます。通常、ドイツではどこであっても8分以内に消防隊が到着しますが、これはボランティア消防隊の数が多いため迅速な対応を可能にしています。2021年7月の豪雨は2日間で220人が亡くなり、消防隊員5人が殉職しました。アル川という小さな川が10時間で非常に大きな川になり、水位が0から7.5mまで上昇しました。住民への警戒は不十分で、多くの人々が何が起きているのか、どうすれば良いのか分からなかったため大きな災害となりました。被害額は405億ユーロになりました。



重要な点は、対応した90%がボランティアによって行われており、ドイツにおける迅速で広範囲にわたる災害対応において、ボランティアの重要性を示しています。改善点としては指揮系統の整備です。ドイツは16の州からなる連邦国家であることから、それぞれに知事が存在し、それぞれに法律があるため、時には問題になることがあります。大規模災害時には、統一された指揮官が必要です。また、自発的な多くの民間支援においても、その管理と調整が必要です。車両と装備の見直しとしては小型車両、四輪駆動車が必要です。ドイツではヘリコプターの方が有効ですが、複数のヘリコプターが同時に運用される場合、全体を指揮する指揮官が必要です。住民への情報提供は、スマートフォンを活用しています。ドイツは通常、地震も火山も津波もない安全な国ですが、あるのは大雨と森林火災です。ヨーロッパには小さな国が多く、多くの人々が住んでいます。だからこそ、お互いに助け合い、学び合うことが重要です。



ステファニア・フィオーレ氏

イタリア国家消防庁機関連携・国際協力部長

イタリアでは森林火災、地震、洪水、工場火災など全ての種類の災害の緊急事態が発生します。また、地震や洪水後の文化遺産の保護にも特別な注意を払っています。イタリア消防救助庁は内務省に所属する国家組織で、長官が緊急対応、訓練、資源、予防、健康などの各部門を統括しています。全国に18の地域局と103の県本部があります。国家組織であることから、イタリア全土で訓練、標準作業手順、装備・資材の均一性が保たれており、指揮系統は一元化されており、管理システムも標準化されています。特殊部隊には、潜水部隊、港湾・空港部隊、通信部隊、水難部隊、山岳・河川・洞窟救助部隊、都市型捜索救助部隊、警察犬部隊などがあり、全国にCBRN（化学・生物・放射線・核）部隊が配置されており、建物の安全確認を行う構造技師部隊、がれき撤去部隊、ドローン部隊もあります。



森林火災対応について航空部隊は、森林火災対応と技術救助の2つの主要任務に分かれて、現場のニーズに応じて、任務を柔軟に切り替えることが可能です。航空部隊は大型ヘリコプター4機、カナディア水上機14機、森林火災専用ヘリコプター2機、森林火災と技術救助両方に使用可能なヘリコプター12機を保有しています。

森林火災の場合は、責任は各地域にありますが、都市部や住宅地に火災が及ぶ場合は、消防隊が責任を持ちます。航空部隊は国家所有であり、避難所などの住民支援は国家民間防衛システムが担います。



ヴィトール・レイス氏

ポルトガル消防大学校理事会顧問

ポルトガルの山火事被害の推移ですが、1980年代から焼失面積が増加傾向にあり、2003年と2017年には40万ha以上が焼失する壊滅的なピークを迎えていました。ポルトガルはヨーロッパで最も山火事の多い国の一で、2017年の山火事では50万ha以上が焼失し、115人が命を落とし、300人以上が負傷し、壊滅的な年でした。この火災が資格制度の断片化、専門職員の不足、山火事気象学の専門知識の欠如といった重大な課題を浮き彫りにしました。通信手段は時代遅れで、意思決定は個人の経験に大きく依存しており、教訓を体系的に学ぶ仕組みはなく、指揮系統は統合されておらず、予防と消火が分断されていたのです。



この教訓を受けて、ポルトガルは新たな統合農村地域火災管理システムを導入しました。これは国家調整機関の設立と予防・教育・リスクガバナンスを重視しており、予防と消火の取組みを統合し、資格を持つ人材と新たな意思決定とを融合しています。それは資源の追跡、インシデントの記録、機関間の通信を総合し、リアルタイムでインシデント管理を支援します。これにより重要な運用データが指揮所に継続的に共有され、迅速な意思決定とより良い調整が可能となりました。もう一つの意思決定支援ツールは、地理情報、航空偵察、位置情報、リアルタイムの運用データを統合し、双方向通信も可能で、現場からのライブ情報を指揮官が受け取り、重要情報を現場に送信できます。

また、火災アナリスト、航空調整官、精銳部隊は、スマートフォンなどのモバイルツールを使用して高解像度の画像やライブ映像を収集し、指揮所にリアルタイムで送信します。これにより、状況把握が向上し、空中及び地上戦術の意思決定を支援しています。更には、偵察機内では、火災アナリストが飛行中に評価を行い、リアルタイムで分析結果を指揮所に送信します。これらによって、指揮所は火災の進行を直接観察できるようになり、火災の進展に対する理解が深まり、迅速かつ適切な意思決定が可能となりました。2018年から2024年の間に発火件数は60%以上減少し、焼失面積も2017年以前の平均と比べて60%減少しておりますが、今後も予防と備えにおいて更なる努力が必要です。



ポール・ラトクリフ氏

英国 国王陛下監察警察・消防救助隊監察官



イギリスにはイングランドに44、ウェールズに3、スコットランドに1、北アイルランドに1つ、合計49の消防機関があります。全国的な組織としてはイングランドの全消防機関を代表する全国消防長協会が存在しており、ここで専門的な意見を発信し、改善と発展を推進し、全国的な連携を図っています。また、独立機関として国王陛下の警察・消防救助監察官庁があり、イングランドの消防機関を監査しています。

イギリスでは9.11のテロ攻撃を踏まえ、大規模災害への専門的対応能力を持つ国家災害局が全国消防長協会の下で組織され、訓練、管理、調整を担っており、具体的には都市型捜索救助、危険物（化学・生物・放射線・核・爆発

物)、大容量ポンプ装置、テロ攻撃対応能力、高度な物流支援、戦術アドバイザーの派遣など、災害発生時に迅速な対応が可能となるよう国内各地に配置されています。2025年6月時点ではイギリスとウェールズでは山火事が500件以上発生しており、前年同期に比べて700%増となっています。2025年は我が国にとって過去最悪の年になる可能性があります。その原因の多くは人為的なもので、ポイ捨てたばこ、放置された焚火、キャンプファイヤー、更には子供による放火や制御不能の野焼きなどです。特に問題なのは山火事が都市部にまで及び市街地にまで拡がることです。山火事の対応手順については、全国の消防機関において統一された手順があります。その一つは消防士の安全に関することで、見張り、危険認識、退避経路の確認、安全地帯の確保に関する手順と、二つ目は山火事の予測システムとして、米国のシステムを自国向けに改良し、風の強さや風の向き、山の傾斜、草木などの可燃物の量を考慮する手順、三つめは地図・予測ツールとして、気象庁による「火災深刻度指数」を活用し、四つ目として、現在開発中ですが、新たな火災の危険度評価システムです。災害の備えとして事前に地図や対応方法など各種情報を作成し、消防隊員が現場で活用できるように消防車に搭載されたタブレット端末からアクセスできるようにしています。消火戦術には「直接攻撃」と「間接攻撃」がありますが、「直接攻撃」では炎の側面、先端、後方からの攻撃があり、「間接攻撃」では、炎の制御線の設置、草木などの可燃物との遮断帯の設置などの戦術を用います。湿度30%以下、風速30m以上、気温30度以上の場合、極端な火災発生が起こる可能性が非常に高いため、火災の挙動を見極めることが重要です。



ケビン・D・クイン氏

全米義勇消防協会前会長



森林火災について、どの国も気候変動による災害から免れることはできないということを改めて強調したい。私のタイトルは「米国における前例のない壊滅的な森林火災」ですが、米国の森林火災は北米における風が変わったことが、近年の災害に大きな影響を与えています。消防に49年間従事してきましたが、最も大きな変化は「風」だと断言できます。風が戦術、災害、そして結果に大きな影響を与えています。マウイ島ラナハイの火災では、炎が川のように流れています。この火災を止めたのは海だけでした。この災害の規模とその影響、そして、火災が拡大する速さは想像を絶します。逃げ場がなかったのです。損失額は32億9千万ドル、亡くなった方は102人、焼失面積は7,000エーカー、失われた建物は3,312棟、マウイ島の全建物の65%が被害を受けました。この火災は極端な風と干ばつによって引き起こされ、対応は完全に圧倒されました。人々が避難するための早期警戒システムの強化と機関間の連携が必要です。

もう一つの事例は、2025年1月のロサンゼルス火災です。損失額は2,750億ドル、犠牲者30人、焼失面積は57,000エーカー。都市部との境界に発生した火災で18,000棟が被害を受け、20万人以上が避難しました。人口密集地での火災、そして風による影響は甚大でした。それは可燃物である沢山の草木類と気象の変化で発生した風が、火災の拡大に拍車をかけました。このような風による火災の拡大に対して、戦略的な展開、相互支援、インシデント管理の実例を共有する必要があります。私達は山火事からの破壊を食い止め、命を守るために、事前計画を改善し、全てを整備しておく必要があります。また、気候変動と急速な都市開発が米国および世界各国における火災発生の動き、発生頻度にどのような影響を与えるのかについて議論する必要があります。米国では、消防関係者の自殺という深刻な問題を抱えています。このような大規模火災の影響を通じて、消防という職業にもっと注目が必要であり、充実強化が必要です。そして、メンタルヘルス支援プログラムや仲間同士のサポート体制を強化することが極めて重要です。



ミラン・ドゥブラバク氏

CTIF：国際消防救助協会総裁



CTIF（国際消防救助協会）においては14の各種委員会とワーキンググループがあります。日本も加盟している世界的規模の組織であります。その使命は、世界中の事例から得られた経験、研究、教訓を共有することで消防士の労働環境を改善することであり、火災や火災対応に関する知識の交換を、報告書、マニュアル、科学的出版物などを通じて推進してます。EUには、「市民保護メカニズム」があり、これには、EU加盟国が全てが参加しており、当初は加盟国同士がお互いに支援し合うための仕組みでしたが、現在では、世界中のあらゆる事例に対応できる体制となっています。災害がEU域内または世界のどこかで発生した場合、被災国が支援要請する必要がありますが、世界各地にあるEU代表部が、どこの国からでも支援要請を受け付けることができるようになっています。ブリュッセルにある「緊急対応・通信センター」がその要請を受け、加盟国に情報を提供、その後、加盟国は支援を申し出る仕組みです。その支援内容は、物資から人員まで多岐に渡りますが、支援を要請した国は、そ

これらの支援を受け入れるかどうかを決定し、受け入れが決まると「緊急対応・通信センター」が支援の提供を調整します。EUの「市民保護メカニズム」が対応する災害の種類としては、洪水、地震、山火事、サイクロンなど、あらゆる種類の自然災害があり、次に、人間によって引き起こされる災害である人為的災害、次に、健康上の緊急事態である感染症の流行で、コロナウイルス感染症にも対応しています。そして、最後に、テロ攻撃や必要に応じた医療搬送などにも対応できる仕組みが整っています。災害時、最初に対応するのは初動対応部隊ですが、緊急時には迅速な相互支援が可能となるよう、加盟国と密接な関係を築いています。次に、欧州市民保護プールですが、加盟国においてEUが所有する人的資源や物的資源を配備する仕組みですが、これらの資源は、災害発生時に直ぐに利用できるようにするために加盟国に分散して配置されています。近年、ほぼ全ての国が過去最大規模の森林火災に直面していることから、このような支援の必要性は益々高まっています。



福西 達也氏

総務省消防庁 国民保護・防災部 地域防災室長



日本においては、国の組織としての消防庁では火災、自然災害等の被害軽減及び救急搬送のための消防防災制度の企画・立案を、また、大規模な災害等において被災した都道府県の消防力だけでは対処が困難な場合、全国的な消防の応援体制である緊急消防援助隊の運用を行っており、現在、6,661隊、25,000人を超える消防職員が登録されています。2024年1月1日、マグニチュード7.6の大きな地震が発生し、輪島市では大規模な火災も発生し死者592人、全壊の建物が6,500棟を超えるなど非常に大きな地震災害が発生しました。これに対して、消防機関の対応としては、地震発生後、直ちに消防庁長官から緊急消防援助隊の出動指示を行い、発災翌日には2,000人を超える規模の部隊を展開し、延べ59,000人が出動。地元消防本部、消防団と連携した消火警戒活動や倒壊家屋からの救助、自衛隊とかDMAT(災害派遣医療チーム)というような関係機関と連携しました。そうして、延べ7万人程度の職員が活動し、435人を救助、3,500人の救急搬送を行いました。特に、消防団は1月1日から31日にかけて石川県内の消防団12市6町で延べ8,329の方々に活動いただきました。2月26日に発生した岩手県大船渡市の林野火災では、被害面積が3,370haで日本においては過去60年の最大林野火災ということになりました。住家被害87棟、非住宅家屋の被害も135棟。この時期、長期的に降水量が少なく非常に乾燥しており、風が強かったというような気象的な要因もありました。緊急消防援助隊の出動があり15都道府県から2,100人規模で活動し、市街地への延焼を防止する消火活動、再燃に備えた巡回、消防防災ヘリによる上空からの消火活動などを実施しました。最大消防ヘリは7機体制、自衛隊のヘリが8機体制で消火活動に当たり、その間、消防団員は延べ3,269人が消防隊と連携して活動しました。現在、国では大船渡市の林野火災を踏まえて、検討会を開催して課題等、また対策の方向性について検討しており、中間取りまとめとして、①消防隊と連携できる情報伝達体制の構築、②大規模火災に的確に対応できる体制の強化、③火災対応に必要な資器材の整備、④地域住民を巻き込んだ避難訓練や飛び火による火災防止等防火意識の向上につながる取組みの推進などが必要という指摘がされています。

第2部 パネルディスカッション

各国の対応状況を発表していただいた後、第2部としてパネルディスカッションを行いました。

秋本会長が進行役となり、最初に、各國からの発表にお礼を述べた後、時間が限られていて十分お話できなかつたこと、他の国の発表をお聞きになって、それぞれのお国の状況でこれから対応についてお考えになっておられること、などご発言いただきたい旨申し上げて、各國代表のご発言を促しました。

ポール氏(イギリス)から、事前の火災事故対策が重要であること。何故なら火災がどのように拡がるか、誰も正確に予知できないこと。一にも二にも重要なのは情報であること。水源の位置を示す地図の他、些細なことだとと思われる情報も提供して、現場へのアクセス方法を事前に計画することが重要であること。消防車の中で隊員が簡単に情報を入手できることが非常に重要であり、英国では、この初期段階での対応が本当に役立っている旨の話がありました。

また、ケビン氏(アメリカ)からは、それらの情報を人工知能であるAIを活用することで戦略や戦術に効果が拡がると思われるとの発言があり、マイケル氏(カナダ)からは、両氏の発言内容について全面的に同意され、カナダの現状についての説明がありました。それは、カナダでは情報共有セクターが存在していないということから、もし、他国に優れた解決策があるのなら、直ぐに入手できる情報手段で共有できるようにする必要があり、ネットワークを築いてカナダでも展開できるようにしたい旨の話がありました。



進行役 秋本会長

ミラン氏(CTIF総裁)から、この数年、夏の山火事シーズンにEU内で消防部隊を危険地域に事前配置し、山火事が発生すると火災に近い場所で消火活動を行うこととした旨の話がありました。また、ステファニア氏(イタリア)から、イタリアの森林火災に対する緊急対応システムについて説明がありました。これは国家市民保護局の調整に基づくシステムで、毎日の予報と速報に基づき、警戒レベルを通知・決定しており、必要があれば危険度の高い地域に航空隊を動員できることになっていること。当然にその状況は毎日変化することから、イタリア消防隊だけでなく、航空隊、軍隊、警察隊などで構成されているとの話がありました。また、全ての自治体と州には、森林火災以外の災害にも対応する特殊な緊急時対応計画も所有している旨の話がありました。



次に、秋本会長(進行役)から、カナダの飛行艇を各国も活用しているような状況から、カナダとして、各国に対して情報の提供をされているのか伺いました。

マイケル氏(カナダ)は、消防飛行艇はカナダの山火事の消火活動で重要な要素であること。カナダにおける消防業務の成功のカギを握るのは飛行艇であり、これはアメリカも同様であること。消防飛行艇の操作や消火活動など、共有できる情報は全てオープンにする必要があることの話がありました。

また、秋本会長(進行役)から、山火事における空からも含めて総合的な消火活動が課題になってくる際等の各における議論をお伺いしたところ、ステファニア氏(イタリア)から、イタリアでは様々な手段を備えた非常に幅広い飛行艇を保有しているが、地上で消火活動を行う消防隊と航空消防隊との連携を確立させることが非常に重要であること、イタリアの場合、指揮官は地上におり、空中からの放水や泡の消火剤で地上の消防隊を危険にさらさないよう、専門のトレーニングを受けており、空中消火作業の調整を行っていること、ポルトガル、イタリア、フランスの3カ国がCL415(カナディア)を共有しており、ヨーロッパのいずれかの国で大規模な火災が発生した場合、ブリュッセルの調整を通じて緊急要請が出れば、命令ひとつでCL415(カナディア)は加盟国を支援するために各国へ飛ぶことになっていること。そして、惜しまことなく援助活動を行う準備ができていること、更には、大規模な緊急事態が発生した場合は、国境など存在しないと考えるべきであるとの話がありました。クリストフ氏(フランス)から、今後の空中消火活動について、飛行艇による消火は、通常、日中のみに行われているが、今後は、夜間の処理能力を増強することになるだろうとの話があり、その理由として、夜になると気温が下がり、湿度が上がるでの消火活動の効果が高まるため、夜間処理に向けて取り組む必要性を話された。また、ボランティアの募集についても若い消防士の採用と、森林火災の基本的な安全ルールを教える必要性を話されました。カール氏(ドイツ)から、ドイツにも消防飛行艇はあるが、大部分はヘリコプターを使用していること、そして、ドイツでは100万人以上のボランティア消防士が登録されており、その7割は若者であることがドイツの消防活動は良い方向に進んでいる旨の話がありました。また、ミラン氏(CTIF総裁)からは、最も重要な点として、世界中でボランティアが減少していることを危惧する発言があり、若い消防士への投資が必要であることから、CTIFは次世代の消防士を体系的に育成する唯一の国際消防協会であるとの話がありました。また、ヴィトール氏(ポルトガル)から、消防士は山火事の訓練を受けて、資格を有していることが非常に重要であるとの話がありました。

秋本会長(進行役)から、消防職員の訓練も大切であるけれども、山火事が住宅に近接するようなものであれば、地域の人達との連携も非常に重要であると考えられるが、どうしているか伺ったところ、ケビン氏(アメリカ)から、アメリカには「ファイヤーウェイズ」という制度があり、住民が自らの資産を守り、安全な場所を確保するためのプログラムを持っていること。そして、今や火災の季節はほぼ一年中であることから、住民に対して避難できる場所について啓蒙している「ファイヤーウェイズ」プログラムも持っております、加えて、カナダにも同様のプログラムがある旨の話をされたところ、当事者であるマイケル氏(カナダ)から、カナダのプログラムは「ファイヤースマート」と言い、自分の資産だけでなく、地域社会に対して貢献できることを住民に啓蒙するシステムがあり、市街地との境界にある地域における山火事対策として、自宅周辺の雑草を刈ったり、木の枝を切ったり、カナダではこの動きが既に始まっているという話がありました。

続いて、会場におられたシェイン氏(カナダ義勇消防協会副会長)からも、山火事からコミュニティを守るために、20kmものラインを燃やす延焼防止作業を行ったことについての話がありました。

また、ミラン氏(CTIF総裁)から、「セルブロードキャスト」と呼ばれるもので、EU諸国では2026年末までには、災害などが発生した場合、その地域内において、スマホを持っている全ての人に対して、避難勧告や防災に関するメッセージを通知するシステムが義務化されるとの話があり、このシステムによって住民の安全性が向上していく旨の話がありました。

ポール氏(イギリス)から、イギリスで実施している防災活動は、消防署が一軒一戸別訪問して、防火啓発のメ



室崎益輝先生

セージを直接伝えることが非常に重要な業務になっている旨の話がありました。続いてヴィトール氏(ポルトガル)からは、山火事に関する注意喚起と地域社会の準備について、ポルトガルでは、山火事に関するその日の危険度についての情報を毎日発信していること。また、山火事に遭遇した場合の行動、自宅周辺で山火事のリスクを軽減する方法などのアドバイスを一般市民に向けて発信するキャンペーンにも力を入れていること、また、森林火災が発生した場合、村への延焼を防ぐため、家屋や村周辺の全ての雑草や樹木を伐採する重要性を説明していることなどの話がありました。

ステファニア氏(イタリア)から、森林火災で避難になるケースはそれほどないが、イタリアでは地域に被害を及ぼすようなリスク要因を分析し、対応策を指定する緊急時対策計画の策定が、各自治体に義務付けられている旨の話がありました。カール氏(ドイツ)からは、住民に対する避難指示の遅れから多くの住民の命が奪われた事例を話され、誰が避難指示を発令するのか、また、瞬時の避難指示の発令の重要性について話がありました。

ここで秋本会長(進行役)から、これまでの議論を踏まえて、会場からの発言を求めましたところ、室崎益輝先生から、山火事の対策について、もっと国際的に連携し、協力するシステムがあった方が良いのではないか、例えば、消防技術の開発を国際的に連携してやるような仕組みができないか、もう一つ、緊急時の消防、山火事対策の国際的な連携で世界中から飛行艇が集まって消火するというような国際的な連携の可能性についての質問がありました。その質問に対して、ケビン氏(アメリカ)から、アメリカでは無人航空機やドローンを衛星からの指示で飛ばし、赤外線と運動して火災の発生場所を瞬時に特定できるような消防技術の開発が進められていることの話がありました。また、カール氏(ドイツ)からは、大規模な山火事に対して、火災の周辺の酸素をなくし、消火するためのロケット弾が使用された経験の話がありました。

最後にこのパネルディスカッションの終了に当たり、秋本会長(進行役)から、それぞれの国のそれぞれの色んなこれまでの経験の中から貴重なお話をいただいたことのお礼とともに、消防人は、皆、同志でそれぞれ共通する使命、共通する問題点があり、連携、協力の必要性があることをこのパネルディスカッションを通じて改めて確認できたことの感謝が述べられました。

そして、国際会議の終了に当たり、主催者である日本消防協会の秋本会長から、各国消防の皆さんができるだけ大きな山火事など大規模な災害に直面され、地域の皆さん的生命財産を守り抜くため、最善を尽くしておられること、そのことを消防の使命として、それぞれの国の状況に応じた対応体制の充実強化を進めようとしておられること、そのため、関係者の情報交流、課題の共有、指揮命令系統の統一といった情報関係の体制強化、被害に関する早期の正確な情報把握や効果的な対応のあり方についての共同研究や、要員確保、装備の充実、訓練実施等による対応体制の強化等を課題としておられ、更に、国、地方団体の連携、専門機関の協力、地域住民の皆さんとの参加など総合的な体制強化を具体的な課題としておられることが良く分かったと述べ、このような課題への対応は、消防制度等が各国において異なるものの、根底における災害対応の重要性認識や当面する課題の存在についての共通性を実感したこと、そして、益々激しくなる地球全体の災害への対応については、このような認識のもとにこれからも情報交流を行い、必要に応じて各国が連携しながら、それぞれ必要な対応をすることが望ましいと思ったことを述べ、終わりに、この度の国際会議の中でいただいた様々な情報をできる限り色々な機会に皆様にお伝えし、これを活かしながら今後とも我が国消防体制の充実に努力して参りたい旨の挨拶があり、ご参加いただいた皆様へのお礼を申し上げて閉会となりました。

国際会議終了後、来日していただいた世界各国の方々に対する感謝の気持ちを込めて、日本文化にも触れていただくよう、砂崎知子さんのお琴と武田旺山さんの尺八により「春の海」を、そして砂崎知子さんのお琴で「ロンドンの夜の雨」をお聴きいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。



International Conference on Climate Disasters & Emergency Management
「山火事など世界災害」国際会議



International Conference on Climate Disasters & Emergency Management
「山火事など世界災害」国際会議



お琴と尺八の演奏

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、芸能界、スポーツ界等の著名な方々により結成された「消防応援団」の御協力を得て、全国各地で頑張っている消防団員にエールを送るとともに、一般の方々にも消防団活動等について理解を深めてもらうため、消防団に関するラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」を放送しています。

今回は、令和7年4月最後の週から令和7年7月までに放送した出演者を紹介します。

なお、放送した番組は、日本消防協会のホームページで聴くことができます。



令和7年4月最後の週と5月放送分に
出演の消防応援団
林家たい平さん

4月26日又は27日放送



福岡県
福岡市西消防団
団長
久保 金臣さん

流石、斬家たい平さん！
おかげ様で楽しくお話をできました。ありがとうございました。
今後も「日消まとい」受章団としての誇りと自覚を持って、
消防団活動に取り組んでまいります。
「頑張るバイ!!」福岡市西消防団

5月3日又は4日放送



岡山県
笠岡市消防団
班長
奥野 徹さん

消防団を通じて多くの経験をさせていただきました。ラジオ出演もその中の1つになります。自分達の活動を多くの人に知っていただき大事は今後の活動の助けになってくれる事だと思います。また全国の頑張っている消防団員のお話は頑張る活力となりました。これからも皆さんと地域の安心安全を守っていけたらと思います。

5月10日又は11日放送



福島県
桑折町消防団
班長
菅野 茜さん

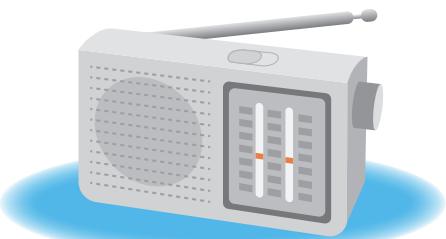
「献上桃の郷」桑折町消防団を取り上げていただきありがとうございました。職場や家族の理解があってこそこの消防団活動だとあらためて感じました。今後も地域防災力向上のため、私たちらしく活動していきたいです。

5月17日又は18日放送



埼玉県
深谷市消防団
副団長
柿木 寿人さん

この度はお声掛けいただき、ありがとうございました。ゲストの林家たい平さんのお力添えもあり、程よく緊張が解けました。深谷市と深谷市消防団のアピールをすることができ大変光栄に存じます。これからも皆様にご協力いただきながら、全力で取り組む所存です。



令和7年5月最後の週と6月放送分に
出演の消防応援団
平野啓子さん

5月31日又は6月1日放送



宮城県
南三陸町消防団
班長
牧野 晴道さん

今回、このような経験をさせていただき、改めて自分の消防に対する思いを再確認しました。地域を守る消防団活動を、いかにして次の世代へ残し繋げて行くか、それが課題のように思います。

6月7日又は8日放送



長崎県
佐世保市消防団
団員
鳥本 実穂さん

日頃の活動や当団の特徴を考える機会をいただきましたことに感謝しております。災害が年々増える中、消防団員の人数は減少傾向にありますので、今後も機会がありましたらこのような場をお借りして、地域に消防団の魅力をしっかりと伝えていきたいと思います。

6月14日又は15日放送



愛知県
豊田市消防団
団員
松井 茂さん

この度は大変お世話になりました。
日ごろ何かと世間からの風当たりも強く、誤解されている部分も多い消防団ですので、このように団員の生の声を届けられる機会があるのは大変良いと思いました。
我々(THE FIRESHOCKERS)の活動は、消防団としてはかなりレギュラーかと思いますが、新たな角度から消防団をPRすることが出来ればなと思います。

6月21日又は22日放送



滋賀県
野洲市消防団
副団長
川端 政彦さん

この度は貴重な体験をさせていただきました。短い時間で我が町や団のことを紹介する難しさを感じました。それでも団活動、課題、展望を少しでもお伝え出来ていれば幸いです。今後も野洲市消防団は安心安全な町作りの担い手として活躍してまいります。

6月28日又は29日放送



群馬県
千代田消防団
班長
板橋 一生さん

この度は、ラジオへの出演という貴重な機会をいただきありがとうございました。とても緊張しましたが、改めて自分が所属する消防団の特徴等について考える良い機会になりましたので、今後の活動にこの体験を活かしたいと思います。



令和7年7月放送分に
出演の消防応援団
照英さん

7月5日又は6日放送



大分県
豊後大野市消防団
第4方面団長
渡邊 憲二さん

この度は、ラジオ出演という貴重な体験をさせていただきました。これを機に、たくさんの方が消防団・防災活動に興味を持っていただければ幸いです。これからも地域の安全・安心を守るために、一生懸命消防活動を続けていきたいと思います。

7月12日又は13日放送



新潟県
聖籠町消防団
副団長
阿部 孝平さん

今回『おはよう!ニッポン全国消防団』に出演させていただき、ありがとうございました。全国的な問題でもあると思いますが、当町消防団においても新入団員の加入促進が難しい状況となっています。しかし、自然災害等が頻発する現代において、消防団の活動意義は増え高まっていると思います。全国の消防団員一丸となって、地元を守るために頑張りましょう!

7月19日又は20日放送



石川県
能美市消防団
分団長
濱谷 千晴さん

ラジオを通して全国に能美市消防団を紹介できた事とても嬉しく思います。女性消防団の普段の活動をPRできる貴重な機会を頂きありがとうございました。これからも団員と共に楽しく活動していきたいと思います。

7月26日又は27日放送



京都府
京都市左京消防団
部長
小野 桂さん

ひろたさん、照英さんのおかげで、楽しくお話しさせていただきました。京都市左京消防団の取り組みを、多くの方々に紹介する機会をいただき、ありがとうございました。京都市のイベントや、SNSなどの情報発信などで、若い方々に興味をもつていただけたら幸いです。

「おはよう！ニッポン全国消防団」放送日時

地方	県	放送局	放送日	放送時間	備考
北海道	(株) S T V ラジオ	日	5:50~6:00		
東北	青森	青森放送(株)	日	7:20~7:30	
	岩手	(株) IBC 岩手放送	日	6:15~6:25	
	宮城	東北放送(株)	土	5:00~5:10	
	秋田	秋田放送(株)	日	6:15~6:25	
	山形	山形放送(株)	日	6:20~6:30	
	福島	(株) ラジオ福島	土	5:40~5:50	
	新潟	(株) 新潟放送	日	7:40~7:50	
関東	東京	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	神奈川	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	埼玉	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	群馬	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	千葉	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	茨城	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	栃木	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	山梨	(株) ニッポン放送	日	6:15~6:25	
	長野	信越放送(株)	日	6:50~7:00	
中部	福井	福井放送(株)	日	6:10~6:20	
	石川	北陸放送(株)	日	7:35~7:45	
	富山	北日本放送(株)	日	6:10~6:20	
	三重	東海ラジオ放送(株)	土	5:30~5:40	
	愛知	東海ラジオ放送(株)	土	5:30~5:40	
	静岡	東海ラジオ放送(株)・ニッポン放送(株)	土・日	5:30~5:40 6:15~6:25	一部地域は東海ラジオ放送
	岐阜	東海ラジオ放送(株)	土	5:30~5:40	
近畿	京都	大阪放送(株)	日	6:00~6:10	
	大阪	大阪放送(株)	日	6:00~6:10	
	兵庫	大阪放送(株)	日	6:00~6:10	
	奈良	(株) 和歌山放送・大阪放送(株)	土・日	6:30~6:40 6:00~6:10	一部地域は大阪放送
	滋賀	東海ラジオ放送(株)・大阪放送(株)	土・日	5:30~5:40 6:00~6:10	一部地域は東海ラジオ放送
	和歌山	(株) 和歌山放送	土	6:30~6:40	
中国	鳥取	(株) 山陰放送	土	5:30~5:40	
	島根	(株) 山陰放送	土	5:30~5:40	
	岡山	西日本放送(株)・(株) 中国放送	土・日	7:35~7:45 5:30~5:40	一部聞きづらい地域があります。 一部地域は中国放送
	広島	(株) 中国放送	日	5:30~5:40	
	山口	山口放送(株)	土	6:50~7:00	
四国	徳島	四国放送(株)	土	6:40~6:50	
	香川	西日本放送(株)	土	7:35~7:45	
	愛媛	南海放送(株)	日	6:55~7:05	
	高知	(株) 高知放送	日	6:40~6:50	
九州	長崎	長崎放送(株)	土	7:25~7:35	
	福岡	九州朝日放送(株)	日	6:15~6:25	
	大分	(株) 大分放送	日	6:45~6:55	
	佐賀	長崎放送(株)	土	7:25~7:35	
	熊本	(株) 熊本放送	土	6:50~7:00	
	宮崎	(株) 宮崎放送	日	6:20~6:30	
	鹿児島	(株) 南日本放送	土	8:30~8:40	
	沖縄	(株) ラジオ沖縄	日	6:35~6:45	

Women's Fire Contest 2025

第26回全国女性消防操法大会

オリジナル記念Tシャツ

ピンク

ネイビー



ご注文受付期間

2025年

11月3日(月)まで

締め切り後1ヶ月程度でお届け

※発送スケジュールは、
オンラインショップをご確認ください。

送料について

ご注文金額が10,000円以上で送料無料。※ご注文金額が10,000円未満の場合、送料770円(税込)「北海道、沖縄、離島は1,320円(税込)」が発生いたします。
※配送先が複数台所の場合、配送先2台所目以降、1台所につき送料770円(税込)「北海道、沖縄、離島は1,320円(税込)」が発生いたします。※お支払方法に「代金引換」を選択された場合、代引手数料400円(税込)が発生いたします。

ウェアの特徴

裏面がメッシュ構造になっており、抜群の通気性と吸水速乾性を持ち、汗冷えを防ぐとともに、肌離れもよく、快適な着心地が持続します。

表面



裏面



■サイズ表

	S	M	L	LL	3L
身丈	65	68	71	74	77
身幅	47	50	53	56	60
肩幅	44	46	48	50	53
袖丈	20	21	22	23	25

| 第26回全国女性消防操法
大会記念Tシャツ

[カラー] ピンク、ネイビー
[サイズ] S、M、L、LL、3L
[素材] ポリエステル100%

2,200円(税込)

お問い合わせ

(公財)日本消防協会 総務部 TEL03-6263-9497

ご注文は  株式会社シグナル

△下記URLまたはQRコードからアクセス△

https://www.signalos.co.jp/web/zenkoku_soho2025/





1 はじめに

この度、南越消防組合越前市消防団（以下越前市消防団）は、令和7年3月7日にニッショーホールで開催された「第77回日本消防協会定例表彰式」におきまして、消防団にとって最も栄誉のある特別表彰「まとい」を受賞いたしました。越前市消防団としてこのような誇りとなる賞を受賞できましたことは、大変喜ばしく、今後の消防団活動のより一層の励みとなりました。

これもひとえに、これまでの礎を築いてくださった諸先輩方はもとより、いかなる時も消防団員を支えてくださったご家族の皆さま、そして市民の皆さまのご支援とご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

2 「越前市」の紹介

越前市は、福井県のほぼ中央に位置しています。「越前富士」と呼ばれる日野山（795m）など400m～700m級の山々に囲まれた武生盆地を中心に市街地を形成しており、武生盆地の

中央には福井県内三大河川の一つである日野川が南北に流れ、九頭竜川と合流し日本海にそいでいます。人口は約8万人で、面積は230.70km²、県内面積の5.5%を占めております。冬は降雪量が1mを超えることもある日本海特有の気候です。

越前和紙や越前打刃物、越前簾笥の伝統産業も盛んで、越前和紙は、1500年余りの歴史があり、NTV（日本テレビ）の「ザ！鉄腕！DASH!!」にも取り上げられたほか、越前打刃物はTBSテレビで放送された「グランメゾン東京」で木村拓哉さん演じる主人公の尾花夏樹が使用したことでも話題となりました。

グルメでは、ぴりっとした大根の辛さがくせになる「越前おろしそば」が有名で、市内には多くのおろしそばのお店があり、自分好みのお店を探すことができます。

また、2024年NHK大河ドラマ「光る君へ」の主人公まひろ（紫式部）が生涯で唯一、京の都を離れ青春時代を過ごした場所がこの越前市です。紫式部をしのんで造られた「紫式部公園」は、寝殿造の庭園が再現され、紫式部が暮らした時代の四季折々の風情を感じることができます。



まとい受賞市長報告



いのちの教育(小学校での普通救命講習)



水防訓練



福井県消防操法大会

2024年3月には北陸新幹線の金沢－敦賀間が開通し、越前市にも「越前たけふ駅」が新たに開業しました。自然、歴史、文化、食のすべてが融合した街が、ここ「越前市」です。ぜひ機会があれば、越前市に遊びに来てください。

3 「越前市消防団」の紹介

越前市消防団は、平成17年10月1日に武生市と今立町が合併し越前市が誕生したことに伴い武生消防団と今立消防団が合併し誕生しました。平成27年10月1日には、女性分団である「式部さくら分団」を発足し、現在は18分団体制で活動を行っています。

令和7年4月1日現在で、実員529名で構成されており、消防車両は、消防ポンプ自動車3台、多機能型消防車1台、全自動ポンプ積載車15台、小型動力ポンプ積載車3台を配備しております。

4 「越前市消防団」の活動

越前市消防団の活動は、火災等の出場、台風や豪雨時における警備警戒や水防活動、火災予防運動時に実施している警防訓練はもとより、越前市消防団年間行事計画に基づき、越前市消防出初式、総合防災訓練、福井県消防操法大会への出場、市内で実施される花火警備警戒や年末特別警戒等の多岐にわたり積極的な活動を実施しています。

市内での各種イベント開催時には、チラシや

広報物品を配布し火災予防運動及び消防団員募集の広報活動や小学校に出向き普通救命講習の講師を行うなど、地域の皆さんと一緒に災害に強いまちづくりを意識しています。

こうした活動が、有事の際には大きな力になると信じて日々の活動を行っております。

また、式部さくら分団を中心構成された越前市女性消防隊は、令和5年度に開催された第25回全国女性消防操法大会に初出場しました。慣れない会場ではあったものの、規律ある行動、素早い動作と確実な操作をしっかりと披露することができ、日ごろの訓練の成果を十分に發揮することができました。女性の更なる活躍を確信したところであります。

5 終わりに

近年の気候の変化に伴い災害リスクは高まっており、災害は、激甚化・頻発化しています。越前市におきましても、山や川などを有しており自然が豊かである反面、様々な災害リスクを併せ持っているとも言えます。

こうした中、地域住民からの消防団への地域防災の担い手としての期待はますます高まっていることから、災害時の活動はもちろん、平時からの訓練を重ね、この受賞に満足せずさらに邁進していく所存です。末尾になりますが、今回の特別表彰「まとい」の受賞にあたり、格別のご配慮を賜りました日本消防協会をはじめ、福井県消防協会ならびに越前市消防団を支えていただいているすべての皆さんに心から感謝申し上げます。



「絆と使命 松原市消防団の魅力」

松原市消防団 団長 芝池 優



1 松原市の紹介

松原市は、大阪府のほぼ中央に位置し、大阪市や堺市、羽曳野市、藤井寺市、八尾市に接しています。市域は東西約5.8キロメートル、南北約5.1キロメートル、面積約16.66平方キロメートルで、ほとんど平坦地です。

豊かな自然環境と文化・教育施設が調和した地域であり、市民の安心・安全な生活を支える「セーフコミュニティ国際認証都市」として3度認証されています。この取組は、地域全体で事故や災害を未然に防ぐことを目的としており、消防団活動もその一環として重要な役割を果たし、地域社会が一体となり、より安心・安全で住みやすいまちづくりを進めています。

2 松原市消防団の紹介

昭和30年2月に発足した松原市消防団は、団本部と6つの分団で構成されており、令和7年4月1日現在で131名の団員



が活動しています。

主な装備としては、指揮車1台・消防ポンプ自動車6台・小型動力ポンプ積載車6台が配備されています。また、令和5年10月には本市初となる女性消防団員が入団し、性別にとらわれず様々な活躍の場を設けることで消防団活動の多様化を図るとともに、団員確保にも積極的に取り組んでいます。

3 松原市消防団の活動について

松原市消防団の活動は、年間を通して全分団が実施している初動体制訓練（災害時における被害の情報収集及び無線訓練）、市内の警戒広報、各分団がそれぞれに実施する放水訓練や規律訓練などがあります。

また、実際に消防団員が市内小学校に赴き、消防団の歴史や役割、さらには防災教育の一環として災害時の危険性や避難方法についての講義や放水体験、煙体



験、心肺蘇生法を盛り込んだ2時間の授業を行い、未来を担う子ども達に将来にわたって消防団員を確保する「次世代の消防団員育成事業」を毎年9月から2月頃にかけて実施しています。さらには、春秋の全国火災予防運動に合わせて行う「市内巡回広報出陣式」や「消防出初式」に参加する他、松原市が事業主体として毎年秋に実施する「まつばらマルシェ」では消防団ブースを出展し、吉本興業株式会社の若手お笑い芸人を招いて市民に対する防火防災教育や消防団の役割などを広めるとともに、入団促進イベントも実施しています。

4 松原市消防団の課題について

松原市消防団のみならず全国的な課題の一つに団員確保があります。現代の生活環境において若い世代の入団者が減少傾向にあり団員の高齢化が進むため、定員維持や活動の継続性に影響が出る可能性があります。

今後は、若い世代にも魅力的に映るような活動内容の見直しや、地域住民とよ



り緊密なコミュニケーションを図ることで、消防団活動への理解と支持を広げていくことも重要と考えます。

5 おわりに

松原市消防団は、地域の安心と安全をしっかりと守るために今後も尽力し続けます。団員一同、地域住民の皆様から寄せられる期待や信頼に応えるべく訓練や広報活動に全力で取り組むなど、日々の活動を通じて防火防災意識の向上に貢献し、「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に地域防災の要であることを強く意識し、消防団活動に邁進してまいります。





「時代の変遷に対応する 消防団像を目指して ～地域の安全・安心のために～」

湖南市消防団 団長 吉田 真二



1 湖南市の概要

湖南市は滋賀県南部に位置し、大阪、名古屋から100km圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流拠点にあります。

南端に阿星山系を、北端に岩根山系を望む丘陵地で、これらの丘陵地に囲まれて、地域の中央を野洲川が流れており、野洲川付近一帯に平地が開け、水と緑に囲まれた自然環境に恵まれた地域です。

古くは近江と伊勢を結ぶ伊勢参宮街道として栄え、江戸時代には石部に東海道五十三次の51番目の宿場がおかれ、これを中心とした街道の産業や文化が栄えました。

市内人口は、53,879人（令和7年4月1日現在）、総面積が70.4km²で滋賀県土の1.75%を占めています。

観光資源としては、野洲川両岸に後期古墳が多数分布し、南東部の三雲には100基を超える群集墳の園養山古墳群があります。阿星山は山岳信仰の対象であったとされ、山麓の常楽寺（本堂と三重塔は国宝）や長寿寺（本堂と厨子は国宝）、善水寺（本堂は国宝）といった国指定の重要文化財が多く存在します。また、宿場まちとしても栄え、平松のウツクシマツ自生地は国指定天然記念物として指定されている歴史を持った地域となります。

2 湖南市消防団の紹介

湖南市消防団は、2004年（平成16年）10月に、旧甲賀郡石部町と甲西町が合併により誕生しました。現組織は、団本部を主軸に5つの分団が編成され、実団員277



湖南市消防団 第2分団 消防ポンプ自動車(車両総重量：3.5トン未満)

名(令和7年4月1日現在/定員300名)、消防車両26台(消防ポンプ自動車9台、可搬積載自動車17台)を保有しています。

道路交通法の一部を改正する法律が施行され、新たに「準中型自動車免許」が創設されたことにより将来的に消防団活動に支障が生じるおそれがあるため、昨年度に更新した消防ポンプ自動車は、車両総重量を3.5トン未満の車両とし、普通自動車免許にて運転できる車両としました。

昨今の人口減少に伴う少子高齢化や労働環境の変化により、消防団を取り巻く環境は年々変化しています。本消防団においても、消防団員の確保が困難となってきた現状に反し、災害形態は複雑多様化しており、地域の安全・安心を担うため、団員が一丸となり活動しています。

3 湖南市消防団の活動状況

湖南市消防団の年間の主な活動としては、4月に新たに入団した消防団員を対象に初任団研修の実施に始まり、分団訓練を年3回、各分団における機関運用訓練、6月末に地元関係機関と合同で夏期

訓練、7月には全団訓練を実施し、12月には年末特別警戒、1月に消防出初式を行っています。また、その他にもポンプ操法訓練大会に向けた操法訓練や、春・秋の火災予防運動期間中の訓練の実施、防火啓発、滋賀県総合防災訓練、常備消防との合同訓練等にも積極的に参加しています。

4 おわりに

近年、日本各地で発生する様々な災害は、大規模かつ複雑多様化しており、長期化する傾向が見受けられます。特に大規模災害時には、自助・共助・公助の防災体制の確立が重要視されるなか、地域防災の中核を担う地元消防団の役割は市民の生命、身体、財産を災害から守るために無くてはならない存在であります。時代の変遷とともに消防団員数が減少している今日、地域を愛し、共に地域を守る消防団員の魅力を積極的に発信し、これからも地域の安全・安心を守れる湖南市消防団を展開していきます。



令和7年湖南市消防出初式



「再生からの成長」

川棚町消防団 団長 村上 勝喜



1 川棚町の紹介

長崎県中央部、東彼杵郡に属し人口は約13,000人です。

東は東彼杵町と佐賀県嬉野町、北は波佐見町、西は佐世保市と隣接し南は穏やかな内海である大村湾に面しています。東部は東洋のマッターホルンと称されることもある虚空藏山を中心にした山岳地帯が有り、西に大村湾に突き出した大崎半島を中心とした大崎自然公園内にある「くじゃく園」には約200羽のくじゃくが飼育されています。

戦時に旧海軍の重要施設であった「魚雷発射試験場」跡には、片島公園や特攻艇「震洋」の要員訓練場跡には「特攻殉國の碑」が建立され、まさに自然と歴史のある町です。

2 川棚町消防団の紹介

川棚町消防団は団本部と8個分団で構成されています。

団員数は約230名でその内女性消防団は8名。各分団からの勇士で編成されたラッパ隊も有り出初式での式典、市中分列行進、放水等では息の合った迫力ある演奏を披露して各行事に華を添えています。

主な装備としては消防ポンプ車6台、小型動力ポンプ6台を装備しつつ行政内の組織であるため各分団間の団結は強く管轄区域以外でも互いに協力し災害発生時には常備消防の佐世保市消防局の指揮の下、消火活動等を行っています。



出初式



ラッパ隊の演奏

3 川棚町消防団の活動

川棚町消防団では、災害活動として町民の生命や財産を守り安全、安心な生活を寄与するため、火災、風水害等の各種災害が発生した時は常備消防と協力し一体となって消火救出活動を行います。

広報警戒活動として春、秋の全国火災予防週間では、各分団管轄内での広報活動にて地域火災予防の啓発を行い年末や災害が予想されるときに警戒活動を行います。

団員の教育訓練として専門知識、技能習得を向上させるため各階級に応じた教育を行います。

新入団員や正副分団長に対しては隣接している東彼杵町、波佐見町と合同で外部講師として長崎県消防学校の教官を招きそれぞれ、礼式訓練、幹部団員の心構え等の研修を行っています。部長、班長



ホース延長、放水訓練

に対しては川棚町単独で常備消防に協力を仰ぎホース延長訓練等を実施し秋季にはそれぞれ受けた訓練を基に全団員参加し礼式訓練、ホース延長訓練を実施します。

冬季には「火災防御訓練」として年間を通して訓練の成果を見るため実際の火災を想定したより実践的な消火訓練を全団員参加で行うことで消防団の技能向上を目指し活動しています。

4 おわりに

昨年、能登半島付近で起きた地震災害。今年各地で起きた大規模な山林火災等で犠牲となられた方、被災されたすべての方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

各災害現場において地域消防団が懸命に努力対応されたと思います。

幸いにして私たちの町では大きな災害は起きていませんがいつ何時災害が発生するかもしれません。全国的に消防団員の減少が問題となっていますがこのことに関しては川棚町も同様でコロナ禍の影響もあって消防団の技能や団結力も以前より弱くなっているような気がします。それらを挽回するため日々の訓練に努力し力を入れ町民の生命、財産を守って行ける消防団を目指しこれからも活動して行きたいと思います。



シンフォニー（島根県） 「女性ならではの心配り」

浜田市消防団 団本部 女性分団 分団長 金崎 智子

1 はじめに

浜田市は、島根県西部、石見地区の中央に位置する人口約5万人の小さな街です。この街は、海と山に囲まれ、昔から漁業の街として知られ、日本海からの海の幸や、山間地で栽培される米や果実などが特産品です。

また、全国的にも有名な石見神楽や世界文化遺産に登録されている石州和紙などの伝統文化を守る魅力的なところです。

2 浜田市消防団について

浜田市消防団は、私たち女性分団が所属する団本部、中部方面隊、東部方面隊、西部方面隊と、大きな4つの組織から構成されています。

消防団員数は、定員850人に対して女性分団を含めて729人在籍しており、定員に満たない分団が多く、どの分団も常に団員募集中です。

3 女性分団の活動について

私の所属する女性分団は、平成6年4月に設立され、団員数20人でスタートしました。その後、定員を10人増やし、30人で活動していましたが、途中、多くの退団者が出ており、平成17年の合併に合わせて組織編成の変更を行い、現

在は各地区から29人が集い、学生消防団員5人を合わせ34人で活動しています。年齢層は、10代から70代と大きな幅がありますが、仲良く勉強会やイベントでの支援活動をしています。

コロナ禍での約3年間は、主だった活動をすることはできませんでしたが、私が分団長として引き継いだ前年度から、防災、減災を中心とする勉強会への参加や応急手当普及員の資格を持つ団員が中心となり、応急手当講習を継続して指導しています。

また、各地のイベントに消防職員と共に参加し、団員募集のパンフレット配布や応急手当の実演などにも積極的に取り組んでいます。

私は、女性分団長として、数々の先輩



勉強会 救命講習



操法大会 集合写真

方の思いを引き継ぎ、若い団員の新しい力を取り入れて、女性ならではの細やかな心配りができる活動を心掛けています。

何より自慢できることは、8年前になりますが、島根県代表として「第23回全国女性消防操法大会」に出場したことです。結果は下位でしたが、チームワークの良さが試される大会に出場したことで、仲間意識は強まり、練習を重ねた時間、本番で緊張しながらもやり切った操法大会は、私たちの貴重な時間になりました。当時の操法メンバーが、まだ現役で残って活動しているおかげで、団員間の絆が深まり一致団結できていると感じています。

4 今後の活動に向けて

私たち女性分団は、火災現場で消火活動は行いませんが、私たち女性だからこそできる活動があると思います。災害現場では、丁寧な応急手当ができます。避難所が開設されたときは運営に携わり、被災者に寄り添い細やかな心配りのできる活動ができます。女性分団として適材適所での活動を行うことができると感じています。

災害は起こってほしくはありませんが、いつどこで発生するかわかりません。何が起きても焦らず冷静に対応できる精神力と行動力を養い、地域を守れる消防団員として活躍できるよう、日々、訓練や研修に積極的に参加して、より多くの方々に命の大切さ、自分の身は自分で守ることを伝えていきたいと思っています。

女性団員の中には防災士の資格を持つ団員も6人在籍しており、日頃から、備蓄や避難行動について、防火・防災の勉強にも力を入れ、市民に対する指導の際には、より細やかな対応を心掛け頑張りたいと思います。

5 おわりに

女性分団は、個性の強い団員たちの集まりですが、共に協力し、明るく元気に活動しています。

今後も、女性団員としての強みを活かし地域の安全・安心を守るため、一人一人が、今自分にできることを着実にやり遂げ、そして、仲間を信じて共に活躍することで防火・防災に貢献したいと思います。



令和7年大船渡市大規模林野火災に伴う 大船渡市消防団の活動について

大船渡市消防団 消防団長 大田 昌広

1 はじめに

令和7年2月下旬、岩手県沿岸南部では降水量が少なく乾燥した天候が続き、火災が発生しやすい気象状況にありました。

2月19日には大船渡市三陸町綾里で林野火災が発生し、続く2月25日には、陸前高田市小友町で発生した林野火災が、隣接する大船渡市末崎町へと延焼しました。

いずれの火災も鎮圧状態となっていた中、2月26日午後、大船渡市赤崎町において3度目となる林野火災が発生。強風にあおられて急速に延焼し、大規模な林野火災へと発展、市内の広範囲に影響を及ぼす事態となりました。

火勢は一部の住宅地にも及び、複数の地区に避難指示が発令されるなど、地域住民の生命や生活に多大な影響を与える未曾有の災害となりました。

このたびの火災により被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。



立て続けに発生した3件の火災の発生状況

出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp>) 加工：(公財)日本消防協会にて編集

2 大船渡市の位置と地勢

大船渡市は岩手県南東部、三陸沿岸に位置する市で、太平洋に面したリアス式海岸と山林に囲まれた自然豊かな地域です。人口は約32,000人、面積は322.51km²。市街地は湾岸部に集中し、海と山の距離が近く、内陸は急峻な山地であることが地勢上の大きな特徴です。

この地勢的特徴により、特に乾燥した冬季には林野火災のリスクが高まります。過去にも林野火災の事例はありましたが、今回の火災では強風と乾燥の影響により、消火活動が極めて困難となりました。

3 大船渡市消防団の概要

大船渡市消防団は、1団本部・12分団で構成され、令和7年6月1日現在の団員数は605名(条例定員766名)で活動しています。

消防車両はポンプ車20台、小型動力ポンプ付積載車21台を各分団に配備し、地域に密着した防火・防災活動を展開しています。

平時から林野火災を想定した訓練や啓発活動を行うなど、常備消防の連携強化を図り、地域に根差した防災・減災活動を継続しています。

4 大船渡市消防団の活動

令和7年2月26日午後1時2分頃、大船渡市赤崎町の山林において火災が発生したとの通報が消防本部に入りました。通報を受け、市の防災行政無線により消防団への出動要請が発せられ、大船渡市消防団は

直ちに出動体制を整え、速やかに現場へ急行しました。

火災現場は、赤崎町の海岸部から山間部にかけて広範囲に及び、付近には複数の集落も点在していたことから、消防団は常備消防（大船渡消防署）および岩手県広域消防応援隊と密接に連携し、火災の延焼防止活動、各地域への避難広報および住民への避難誘導、避難対象地域における安全確保と道路封鎖の対応を実施しました。

午後から吹き始めた強風の影響により、火勢は急激に拡大し、発災からわずか1時間後に、最初の避難指示が発令されました。その後、火災の拡大に伴い、避難指示の対象地域は段階的に広がっていきました。避難指示の出された地域においては、消防団車両を安全な場所へ退避させるとともに、地域住民へのさらなる避難誘導と、関係機関と連携した道路封鎖作業を実施しました。

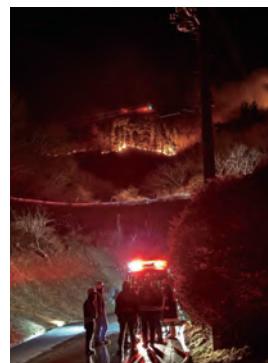
また、林野火災においては消火用水の確保が困難となり、水量が著しく不足する事態となつたため、近隣の漁港からポンプを用いて海水をくみ上げ、消防署隊へ向けた長距離送水を実施しました。この送水活動は、複数の中継拠点を設けるなどの工夫を伴ながら、迅速に行われました。

消防団員たちは、約12時間におよぶ連続的な消火・誘導活動に従事し、体力・精神的疲労の限界に近づいていましたが、午後10時頃には、宮城県および山形県から派遣された緊急消防援助隊が現場に到着し、火災対応活動の一部を引き継ぐ体制が整いました。これにより、大船渡市消防団は待機態勢へと移行しつつも、引き続き現場支援・情報連携・後方支援などの役割を担い、完全鎮圧・鎮火に向けた活動を継続しました。

本件対応を通じて、広域的な火災対応における相互連携の重要性、ならびに地域住民への迅速な情報伝達と避難誘導の体制整備の必要性が改めて認識されました。



綾里小学校西側山林に延焼拡大する火災



緊迫する夜間の活動の様子



5 市内の被害状況(令和7年7月8日現在)

- (1) 延焼範囲 約3,370ha ※2月19日発生の火災の延焼範囲を除く
- (2) 人的被害 死者1名(90代男性)
- (3) 家屋等の被害

住家	90棟(うち全壊 54棟)
非住家	136棟(うち全壊121棟)
計	226棟(うち全壊175棟)

6 おわりに

これまで大船渡市では、地震や津波災害への備えを進めてまいりましたが、今回のような乾燥期に発生した広範囲の林野火災は、過去に類を見ない規模となりました。その中で、消防団は市民と密に連携し、平時の訓練と経験を活かしながら、迅速な対応により人的被害や施設被害の拡大を最小限にとどめるよう尽力しました。

今後、気候変動の影響などにより、このような自然災害の頻度・規模が拡大することが予想されます。近い将来に発生が懸念される地震や大規模火災に備え、地域防災の要として、引き続き訓練と連携を重ね、「自分たちのまちは、自分たちが守る」という義勇愛郷の精神のもと、安心・安全なまちづくりを目指して団員一同邁進してまいります。

ぼうさいこくたい2025 in 新潟 令和7年9月6日・7日開催

(公財)日本消防協会 国際部



内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」が令和7年9月6日(土)、7日(日)に、新潟県新潟市で開催されます。

このイベントは、「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図ることを開催趣旨としており、今年で10回目の開催となります。昨年と同様、現地参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド形式で開催します。毎年多くの団体・機関が出展し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベントです。

入場料は無料で一般の方から自治体・企業・防災専門家まで、こどもから大人までどなたでもご参加いただけます。皆様のご来場お待ちしております。

(公財)日本消防協会は、このイベントに参加し、セッション「地域総合防災力の発揮」をテーマに開催します。

開催日時 現 地：令和7年9月7日(日) 14:30～16:00
オンライン：上記時間に全国配信(後日、録画配信有り)

開催場所 新潟県新潟市 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター4階 国際会議室

開催趣旨 開催地新潟県では、中越地震などの地震災害のほか、洪水や豪雪など、さまざまな災害を体験し、地域内のいろいろなお立場の方々の参加や地域間の連携など、いわば、地域の幅広い皆さんの参加による地域総合防災力の充実に取り組んでおります。そのような具体的な活動事例を発表して頂くとともに、有識者を交えた意見交換を行い、地域の皆さん総参加による地域総合防災力の一層の向上を目指します。

**出演者
(五十音順)** 門前 浩司氏 (総務省消防庁国民保護・防災部長)
中野 正嗣氏 (NPO法人ふるさと未来創造堂事務局長)
櫻澤 秀子氏 (水沢女性防火クラブ会長、新潟県女性防火クラブ連絡協議会会长)
豊田 光世氏 (新潟大学教授)

司会 秋本 敏文氏 (公益財団法人 日本消防協会会长)

開催概要

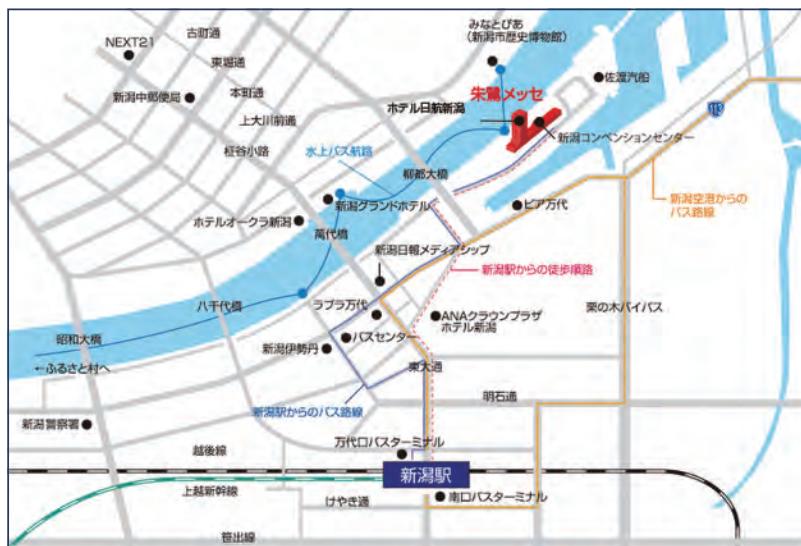
- 名 称** 防災推進国民大会2025
- テ 一 マ** 語り合い・支えあい～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～
- 主 催** 防災推進国民大会2025実行委員会(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)
- 協 力** 新潟県、新潟市
- 開 催 趣 旨** 「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図る。
- 開 催 日 時** 2025年 9月6日(土) 9:00～18:00(予定)
9月7日(日) 10:30～17:30(予定)
- 開 催 会 場** 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター(新潟市中央区万代島6-1)
- 対 象 者** 防災に関心のある方、学びたい方
- 入 場 料** 無料
- 出 展 タイ プ** セッション、ワークショップ、ブース展示、ポスター展示、屋外展示、ステージ発表、出展団体オリジナル企画を予定
- ウェブサイト** <https://bosai-kokutai.jp/2025/>
※過去の大会の概要も見ることができます。

詳しくはWEBサイトで!

ぼうさいこくたい 検索



交通のご案内



●各会場までの交通アクセス

■新潟空港より

- タクシー 約20分
- 新潟駅までリムジンバス 約25分

■北陸自動車道より

- 新潟西 I.C.より車で約20分(約12km)

■新潟駅より

- 路線バス(佐渡汽船行 朱鷺メッセ停車) 約15分
- タクシー 約5分
- 徒歩 約20分

「消防車両等国際援助事業」に係る 更新車両提供のお願い

(公財)日本消防協会 国際部



日本消防協会では国内の消防機関等から更新車両の提供を受け、それらを開発途上国に無償で援助する「消防車両等国際援助事業」を実施しており、開発途上国における消防力の向上や日本の国際貢献に寄与しております。

昭和59年度に事業開始し昨年度末までに46か国1,798台の援助実績を重ね、平成28年度からは外務省のODA資金を活用し、海外での技術援助を行っています。

被援助国の需要拡大に対応するため、更なる更新車両のご提供をお願いします。

1 対象

消防車両等を保有する国内全ての消防本部及び消防団事務局等

2 ご提供可能な車両

- (1) 水槽付消防ポンプ自動車
- (2) 消防ポンプ自動車
- (3) 高規格救急自動車
- (4) その他の車両

指令車、水槽車等、海外で有効に活用できるものとします。

なお、化学車はタンク内の消火薬剤を抜き洗浄した状態での提供をお願いします。

3 ご提供いただけない車両

- (1) 梯子車
- (2) 製造から20年を超える車両
- (3) オイル漏れのある車両
- (4) 修理を要する車両(※)

※1 軽微な修理を要する車両は要相談。

※2 可搬ポンプ等のバッテリー交換について、移送後に当協会で行います。

※3 赤色灯、サイレン等の不具合。

4 積載品について

- (1) 消防車両等の積載品(管そう、ホース、三連梯子等)は可能な範囲で積載してください。

なお、水漏れや穴あきがあるホースについてでは、ご遠慮願います。

- (2) 更新予定の備品(ジェットシャーター、エンジンカッター、防火衣等)で使用可能なものがありましたら併せてご提供をお願いします。
- (3) 消火器、空気呼吸器、酸素ボンベ等のボンベ類は、輸出することができないので、取り外してください。
- (4) 高規格救急自動車をご提供いただく場合、メインストレッチャーの積載は必須となります。
- (5) スタッドレスタイヤ(車両積載のスペアタイヤ除く。)は、お受け取り致しかねますのでご了承ください。

5 ぎ装等について

- (1) 廃車後に輸出される車両については、警察への緊急自動車届出確認証の返納に際し、赤色灯の取り外し、消防本部の名称の消去等は必要ありません。
- (2) 広報の一環として、車両表示(消防本部・消防団名称等)を消去しないで寄贈することも可能です。ご希望される場合は、「調査票」にご記入ください。

6 手続き及び費用について

- (1) 廃車及びリサイクル料還付申請において発生する費用については、提供元機関でご負担願います。
- (2) 車両提供後の国内陸送、車両の保守管理等については、当協会が負担します。

7 ODA(リサイクル草の根無償)を活用した車両寄贈について

当協会は従来実施している車両寄贈と併せて、ODA(リサイクル草の根無償)を活用した寄贈に取り組んでいます。

これは、経済的理由から海上輸送費等を捻出できず、寄贈車両の受け入れを断念し

ている国々に対して車両整備費、海上輸送費等を無償で寄贈できる制度です。

この制度では、当協会が車両をプールすることなく、車両整備及び海上輸送等を行うことから、被援助国がODAの申請を行い承認されるまでの間、提供元機関から車両のお引取りができません。そのため、提供元機関に通常3か月から6か月程度の車両保管及び維持管理をお願いすることになります。この制度の活用にご賛同いただき、ご対応いただける機関がございましたら、是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

被援助国数

● アジア	13か国
インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、中国、ネパール、マレーシア、フィリピン、ブータン、ベトナム、モンゴル、ラオス、ミャンマー	
● 中南米	10か国
アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、ジャマイカ、パラグアイ、ペルー、ホンジュラス、ハイチ、エルサルバドル	
● アフリカ	15か国
エチオピア、ジブチ、スーダン、タンザニア、ジンバブエ、コンゴ、モザンビーク、ガボン、ボツワナ、マラウイ、セネガル、アンゴラ、ベナン、ケニア、ウガンダ	
● その他	8か国
サモア、サンマリノ、ソロモン諸島、ニュージーランド、フィジー、パプアニューギニア、シリア、イラン	

8 消防車両提供のご相談について

日本消防協会国際部で随時受け付けておりますので、ご連絡ください。

(公財)日本消防協会 国際部
TEL: 03-6263-9528

インドネシア共和国への「消防車両等国際援助事業」 援助車両の引渡し式を開催

(公財)日本消防協会 国際部

日本消防協会は令和7年7月7日(月)、神奈川県横浜市鶴見区大黒ふ頭において、「インドネシア共和国」に対し援助車両の引渡し式を開催しました。

日本消防協会では国内の消防機関等から更新車両の提供を受け、それらを開発途上国に無償で援助する「消防車両等国際援助事業」を実施しており、開発途上国における消防力の向上や日本の国際貢献に寄与しております。

この事業は、昭和59年度に事業開始し、昨年度末までに46か国1,798台の援助実績を重ね、平成28年度からは外務省のODA資金を活用し、海外での技術援助を行っています。

援助車両及び車両提供元機関

東京都	東久留米市	消防ポンプ自動車	1台
神奈川県	横浜市消防局	水槽付消防ポンプ自動車	1台
埼玉県	川口市消防局	消防ポンプ自動車	2台
	児玉郡市広域消防本部	消防ポンプ自動車	1台
千葉県	船橋市消防局	水槽付消防ポンプ自動車	1台
茨城県	鹿行広域事務組合消防本部	高規格救急自動車	1台
栃木県	石橋地区消防組合消防本部	高規格救急自動車	1台
	宇都宮市消防局	小型動力ポンプ積載型消防自動車	2台
愛知県	犬山市消防本部	消防ポンプ自動車	1台
	大府市消防本部	消防ポンプ自動車	1台
	西尾市消防本部	消防ポンプ自動車	1台

インドネシア共和国への引渡し式の様子



(写真右側)駐日インドネシア共和国大使館 アンドリ スマルヤディ氏



インドネシア共和国に対する援助実績

平成2年	3台	可搬消防ポンプ
平成15年	2台	消防ポンプ自動車、高規格救急自動車
平成16年	8台	消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、高規格救急自動車
平成28年	4台	消防ポンプ自動車、指揮車
平成30年	4台	消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ積載型消防自動車
令和1年	4台	消防ポンプ自動車、指揮車
令和2年	4台	消防ポンプ自動車、高規格救急自動車
令和3年	13台	消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ積載型消防自動車、高規格救急自動車、指揮車
令和4年	15台	消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ積載型消防自動車、化学車、高規格救急自動車、指揮車
令和5年	12台	消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、高規格救急自動車、指揮車
令和6年	15台	消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ積載型消防自動車、救助工作車、高規格救急自動車
令和7年	13台	消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ積載型消防自動車、高規格救急自動車

(公財)日本消防協会 国際部
TEL: 03-6263-9528

令和7年度消防育英会奨学生懇談会を開催

(公財)消防育英会

消防育英会では、令和7年7月24日(木)、25日(金)の二日間にわたり、奨学生懇談会を開催しました。昨年度同様に、全国の奨学生(小学生～高校生まで)を対象に募集し、北海道、岩手県、宮城県、秋田県、長野県、静岡県、岐阜県及び兵庫県の8道県の奨学生20名、保護者及び随行者等含めて38名の方がご参加くださいました。

初日は、日本消防会館2階大会議室に集合し、秋本会長挨拶及び記念撮影を行った後、大型バスで車窓観光(東京タワー、レインボーブリッジ、豊洲市場、有明コロシアム及び両国国技館等)を行い、お台場自由の女神像及びレインボーブリッジを背景に写真撮影を行いました。

その後、東京スカイツリーへと移動し視察研修をしました。期間限定によりトイストーリーのキャラクターが装飾された天望室内に奨学生は大喜びで、奨学生同士で記念撮影をするなど大興奮!天候にも恵まれ、高さ450メートルの天望回廊からは関東一円を見渡せ、東京スカイツリーが東京の街に落とすシルエットを見下ろすことができました。展望した後は買い物を楽しみ、袋を両手に抱える保護者の方を垣間見ることができました。

スカイツリー視察の後は、宿泊地である東京ディズニーランド近くのホテルへと移動し、懇親会を開会しました。懇親会は参加者代表として奨学生保護者の乾杯の御発声により始まりました。



記念写真(日本消防会館内)

ご歓談の間には、育英会総務部長からのサプライズ！「ラウパホエホエフラ」というハワイ島で大きな災害があり、たくましく生きる地元の男の子を題材にしたハワイアンフラを、アロハシャツに黄色の冠衣装で披露しました。軽快なリズムに合わせ、力強いステップを披露し手拍子から拍手へと会場が良い雰囲気に包まれました。

続いて、育英会職員3人が「サザエさん」の音楽に合わせた踊りを披露しました。日中に訪れたお台場にあるサザエさんの土産店を蘇らせるようなユーモアに富んだ踊りを披露し、奨学生から笑みがこぼれました。

会場内の緊張がほぐれた後は参加者全員でレクリエーションの時間！10人が横一列に並んで手をつなぎ、フラフープを通していくゲームを行いました。奨学生と大人合同の4チームに分かれて計2回ずつ計測する簡単なゲームですが、1回目が終わったチームの奨学生同士が「どうすればフラフープを早い時間で通すことが出来るか」を自ら考え方を言い合うようになりました。そんな中、優勝したチームは手を取り合って喜び、他のチームもお互いに健闘を称えあって絆を深めしていました。

その後は、「部長とジャンケンゲーム」を実施！勝ち残った奨学生2人に、ディズニー内で使用できる小型のカメラ等をプレゼントしました。(おめでとうございます！)

そして最後は抽選会を行い、奨学生全員にディズニーグッズをプレゼント！！

賞品を受け取った奨学生からは、「今日はとても楽しかったです。来年も行きたいです。」や「お友達もたくさんきて、お話をだったのでうれしかった。」等、うれしいお言葉をたくさんいただき、大盛況のうちに懇親会は閉会となりました。

2日目は、ディズニーリゾートラインに乗車し、「東京ディズニーシー」と「東京ディズニーランド」へ。早速、ディズニーグッズを身にまとう奨学生や移動中もワクワクが止まらない奨学生で車内も笑顔いっぱいでした。それぞれ希望するパークで、同じ体験を共有し楽しみながら交流を深め大変充実した懇談会を過ごしました。

今年度の消防育英会懇談会は皆様のお陰で、大変素晴らしいものになりましたことに、事務局一同感謝申し上げます。

来年度も実施予定ですので、全国の奨学生のみなさんのご参加を心よりお待ちしております。



記念写真(お台場)

岩手県大船渡市における林野火災に対する消防機関の活動について

総務省消防庁 特殊災害室・広域応援室

1 はじめに

令和7年2月26日、岩手県大船渡市赤崎町字合足で出火した林野火災では、死者1名、住家87棟を含む222棟の建物被害及び約3,370haの山林が焼損し、最大時1,896世帯4,596人に避難指示が発令されるなど大きな被害が発生しました(令和7年4月17日現在)。

本林野火災では、発生直後の急激な延焼拡大から、管轄の大船渡地区消防組合消防本部及び大船渡市消防団の対応に加え、岩手県内各地からの応援部隊の派遣、15都道県からの緊急消防援助隊の派遣、自衛隊の災害派遣がそれぞれ早期に行われ、ヘリによる空中消火や市街地延焼を阻止するための地上からの消火活動等が昼夜を分かたず実施されました。



本稿では、この大船渡市における林野火災において、懸命な活動にあたった消防機関の活動を紹介します。

2 災害概要(令和7年4月17日現在)

(1) 出火場所

岩手県大船渡市赤崎町字合足

(2) 主な時間経過

出火 調査中

覚知 令和7年2月26日 13時02分

鎮圧 令和7年3月9日 17時00分

鎮火 令和7年4月7日 17時30分

(3) 損害

林野被害 約3,370ha

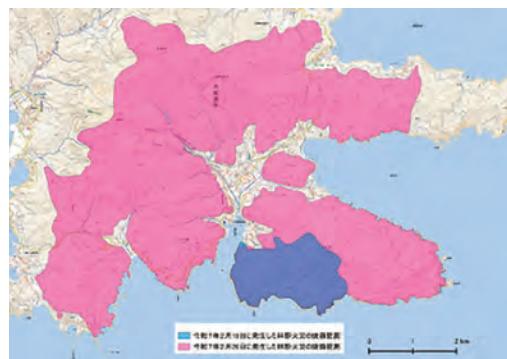
人的被害 死者1名

住家・非住家被害

住家87棟(うち全壊54棟)、

住家以外135棟(うち全壊121棟)

(大船渡市発表)



3 消防機関の活動

本林野火災を覚知した大船渡地区消防組合消防本部・大船渡市消防団は、初動では合足地区及び小路地区の住宅への延焼阻止を重点的に行いました。

また、前日の25日に陸前高田市で発生した林野火災(26日12時00分鎮圧)の対応にあたっていた岩手県内応援部隊及び大船渡地区消防組合消防本部の一部の隊は、覚知後速やかに

綾里小学校を拠点として、火元の北東に位置する綾里地区の住宅地への延焼阻止を重点的に行いました。

消防庁では、26日15時34分、岩手県知事からの応援要請を受け、宮城県と山形県に緊急消防援助隊の出動の求めを行いました。同日20時05分には、仙台市消防局の統括指揮支援隊と指揮支援隊が、それぞれ岩手県庁と大船渡地区消防組合消防本部に到着し、活動を開始しました。その後は消防活動の状況に応じて出動の求めを順次行い、林野火災としては最大規模の15都道県の緊急消防援助隊、岩手県内応援部隊、地元の消防本部約2,100名体制で消火活動に従事しました。



陸上部隊は、市街地への延焼阻止を主目的に延焼阻止線を設けて昼夜を分かたず消火・警戒活動にあたりました。

市内の活動エリアを最大4つに分け、担当エリアを明確にした部隊配置のほか、隊員の体調面にも配慮しながらローテーションを組んで活動しました。また、水利不足が問題となることが多い林野火災の対応であることから、消防用水を確保するため、5台の大型水槽車に加え、海水等を利用した長距離送水が可能な海水利用型消防水利システムを搭載した特殊車両11式を出動させ、有効に活用して

水利不足に対処しました。さらに、ドローンの赤外線カメラを活用して延焼範囲の把握や熱源の確認をするなど、保有する車両・資機材を有効に活用して活動しました。

航空部隊は、地上部隊では進出困難なエリアを中心に、自衛隊と連携して消防防災ヘリコプターによる消火活動を実施しました。安全管理と消火効率の観点から空域を消防防災ヘリと自衛隊ヘリとで分けた上で、小回りの効く消防防災ヘリは主に市街地に近いエリア、散水量の大きい自衛隊ヘリは主に火炎の強い山林のエリアを担当するなどしました。また、機体に搭載したカメラを用い、上空からの情報収集活動及び熱源探査も実施しました。



④ 検討会の開催

本林野火災は、平成以降で最大の林野焼損面積となったことなどから、全国的な注目を集めました。

消防庁では、本林野火災に関し、令和7年4月11日から「大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方にに関する検討会」を開催し、原因調査等も踏まえつつ、消防活動等の検証を行い、今後取り組むべき火災予防、消防活動、装備・技術等の充実強化のあり方について検討を行い、林野火災を未然に防ぐ取組や、より効果的な林野火災の消火活動等に役立てていくこととしています。

問合せ先

消防庁予防課 特殊災害室

TEL: 03-5253-7528 (直通)

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室

TEL: 03-5253-7569 (直通)



あなたの命を守る **マイナ急救**

マイナ急救に関するお知らせ

総務省消防庁 救急企画室

1 全国一斉開始日の決定について

消防庁では、救急業務の円滑化を図るため、救急隊員が傷病者のマイナ保険証を活用し、病院選定等に資する情報を把握する取組みである「マイナ急救」の全国展開を推進しています。

今年度は、全国すべての720消防本部5,334隊（常時運用救急隊の98%）において、マイナ急救を実施することとしており、全国一斉開始日を令和7年10月1日に決定しました。

なお、令和6年度の実証事業に参加した67消防本部660救急隊は令和7年4月以降順次マイナ急救を開始しており、また、下表のとおり、一部の消防本部においてはマイナ急救を実施している救急隊の数を増やして実施しています。

開始日	消防本部名	マイナ急救を実施する 救急隊の数
7月22日	大阪市消防局	10隊→73隊（全救急隊）
8月1日	東京消防庁 札幌市消防局	6隊→111隊（約4割の救急隊） 5隊→36隊（全救急隊）

（※）大阪市消防局は、日勤救急隊2隊を除く。

「マイナ急救」に関するお知らせ 令和7年10月1日から全国一斉開始



2 全国説明会の実施について

マイナ急救の全国一斉開始に向けて、全国すべての720消防本部を対象にした動画による説明会を実施しました。

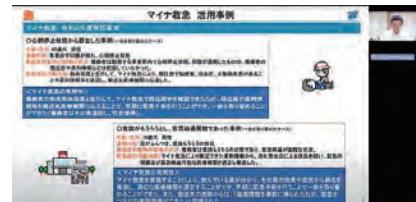
冒頭、令和7年7月1日付で消防庁長官に就任した大沢博長官より挨拶があり、その後、救急企画室から以下について説明を行いました。

- ・マイナ急救事業の概要として、マイナ急救の活用事例やスケジュールについて説明するとともに、各自治体における広報を依頼しました。
- ・マイナ急救システムの運用手順として、タブレット端末での閲覧方法、マイナ急救により閲覧できる医療情報について説明しました。
- ・マイナ急救システムの事前準備として、タブレット端末等の無償貸付、電子証明書発行までの流れについて説明しました。
- ・マイナ急救に要する経費について、令和8年度から自治体負担となることを踏まえ、当該経費等に関する主な質問に対して回答しました。

【令和7年度マイナ急救全国説明会】



（総務省消防庁 長官 大沢 博）



（マイナ急救事業の概要について）

3 広報イベントの実施について

7月25日(金)に、マイナ救急の認知度向上の一環として、大阪・関西万博会場において、大阪市消防局との共催でマイナ救急に関するイベントを実施しました。

イベントでは消防庁鳥井審議官の挨拶に続き、救急隊員によるマイナ救急のデモンストレーションを行いました。また、「マイナ救急」をはじめとする救急に関する知識を深めていただくため、「万博de救急クイズに挑戦！」を実施し、来場された多くの方にご参加いただきました。



イベント風景



消防庁鳥井審議官挨拶



救急隊員によるマイナ救急のデモンストレーション



「万博de救急クイズに挑戦！」

問合せ先
消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529

「第30回防災まちづくり大賞」の事例募集

総務省消防庁 地域防災室

「防災まちづくり大賞」は、地域に根ざした団体・組織等、多様な主体における防災に関する優れた取組や、防災・減災、防火に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国に紹介することにより、地域における災害に強い安全なまちづくりの一層の推進に資することを目的として実施しています。

阪神・淡路大震災を契機に平成8年度に創設され、30回目となる本年度は、令和7年9月12日(金)までの間、取組事例を募集します。

【応募団体・組織】

- 防災対策に関するハード面の取組を実施している団体・組織
- 防災対策に関するソフト面の取組を実施している団体・組織
- 防災対策に関する人材育成等の取組を実施している団体・組織
- 防災対策に関する普及啓発や情報発信等の取組を実施している団体・組織
- 地域における防火対策を通じて災害や火災に強いまちづくりを推進している団体・組織

【応募方法】

- 各都道府県から該当する事例の推薦
 - 上記【応募団体・組織】に該当する団体・組織による自薦
- ※いずれも受付事務局に応募書類を提出

【応募期間】

令和7年7月1日(火)～同年9月12日(金)

【応募の詳細】

実施要綱、募集要項及び募集チラシを下記「防災まちづくり大賞」ページに掲載しています。過去の受賞一覧や近年の受賞事例も掲載していますので、ご参照ください。

<https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/ikusei002.html>

【表彰式】

令和8年2月頃に東京都内で開催する予定です。また、受賞された取組は、消防庁ホームページにおいて事例集として掲載し、広く全国に紹介する予定です。



昨年度表彰式の様子



「防災まちづくり大賞」
シンボルマーク



「防災まちづくり大賞」
ホームページへ
アクセスします

問合せ先

消防庁 国民保護・防災部防災課

地域防災室 住民防災係

TEL: 03-5253-7561



第73回全国消防技術者会議の開催について(ご案内)

消防庁 消防研究センター

消防研究センターでは、消防に関わる全国の技術者が消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表するとともに、他の発表者や聴講者と討論を行う「全国消防技術者会議」を毎年開催しています。

今年度は、下記のとおり開催する予定です。詳細については、消防研究センターのホームページでお知らせします。皆様のご参加をお待ちしております。

記

1 開 催 日 令和7年11月20日(木)・11月21日(金)

2 場 所 三鷹市公会堂 東京都三鷹市野崎1-1-1

※会場での講演・発表のうち可能なものは、消防研究センターのホームページから後日配信する予定です。

※前回の発表動画等は、以下のページからご視聴いただけます。

https://nrifd.fdma.go.jp/public_info/gijutsusha_kaigi/gijutsusha_kaigi_72th/haishin.html



3 定 員 1日目 500人、2日目 550人(予定)

4 参 加 費 無料

5 内 容(予定) 11月20日(木)

■特別講演

- ・講師：家田 仁 特別教授（政策研究大学院大学）
- ・演題：「能登半島地震や八潮陥没事故を踏まえた非常時のインフラ機能と緊急活動」(仮題)

■「令和7年度消防防災科学技術賞」の表彰式および受賞者による発表

11月21日(金)

■「令和7年度消防防災科学技術賞」の受賞者による発表

■第28回消防防災研究講演会

- ・テーマ「岩手県大船渡市における林野火災」(仮題)

6 プログラム及び
参 加 申 込 み 消防研究センターのホームページ(<https://nrifd.fdma.go.jp/>)をご覧ください。

7 問い合せ先 消防庁 消防研究センター 研究企画部
〒182-8508 東京都調布市深大寺東町4-35-3
TEL: 0422-44-8331
E-mail: 73_gijutsusha@fri.go.jp

うちの

名物団員



大阪府

滋賀県

和歌山県

島本町消防団 分団長

三浦 健

島本町消防団からは、三浦健分団長を紹介します。

平成10年に入団し、約10年間分団長として地域住民の安心・安全を守るために尽力されています。応急手当普及員講習を受講する等、救急救護に高い意識を持ち、今年度は大阪府消防大会の出場希望選手として参加し、技術向上や若手団員の指導にも取り組まれています。このような姿勢は町の誇りであり今後もご活躍が期待されます。



甲良町消防団 分団長

村西 徳弘

甲良町の北には、鈴鹿山脈から琵琶湖に注ぐ一級河川「犬上川」が流れ、甲良町はこの犬上川左岸の扇状地に位置し、我が町から偉人の武将「藤堂高虎公」が生まれた町である。そんな滋賀県甲良町消防団からは、村西徳弘分団長を紹介いたします。地域の消防団員として30年前の4月に入団すると、たちまちその8月には滋賀県消防操法訓練大会に小型ポンプ操法の部1番員で出場し4位入賞。3年後、ポンプ車操法の部に出場し僅差で入賞を逃したが、その後も含めて選手で計7回出場した稀有な体験と体力自慢の甲良町消防団員です。



和歌山市消防団 団員

平山 利恵

和歌山市消防団からは、平山利恵団員を紹介します。旅行が趣味という平山団員は、これまでの経験で培った広い視野と持ち前の明るい笑顔で団を支えてくれる頼もしい存在です。また、全国初となる消防団のクラブチーム「広報デザイン部」の部長として活躍されており、公式SNSを利用した若年層への消防団の広報や入団促進にもご尽力頂いております。「消防団をもっとたくさんの方に知ってもらいたい」という熱い気持ちは誰にも負けません。今後も消防団の活性化に良い影響を与えてくれることを楽しみにしています。



津和野町消防団 団員

長島 敬太

津和野町消防団で活躍する長島敬太団員を紹介します。

長島団員は津和野町役場の職員として働いている傍ら、地元の農事組合法人で機械のオペレーターとして農業に携わっています。集落の豊かな農村風景を維持するため、春から夏は水稻を、冬にかけてはキャベツの栽培に勤しんでいます。Iターンで移住してきましたから、とても人懐っこい性格で集落に溶け込み、今では消防団をはじめとして集落の中でも中心的な存在です。

オフの日には趣味のバイク（愛車のHONDA NSF250F）でサーキットをアクセル全開走行しています。

様々な顔を持ちながら、地域の維持、活性化、安心安全を担う長島団員に今後も大きな期待をしています。



佐世保市消防団統括本部 副団長(第3中隊本部中隊長)

田渕 次郎

「次郎ちゃん」の愛称で慕われる田渕副団長は、牡蠣の養殖および販売業を営む傍ら、今や毎回2万人を超える来場者を集める本市の名物イベント『九十九島かき食うカキ祭り』を自らの力で立ち上げました。

東日本大震災の際には、水産復興支援の責任者として東松島市で10日間にわたる活動に積極的に参加し、また地元の大学において自らの人生経験を活かした防災講義を行うなど、強いリーダーシップと義勇の精神で社会貢献を果たす多才な人物です。



あさぎり町消防団 第8分団1部 班長

中原 大志

中原班長は、花き農家を経営される傍ら消防団員として地域の安全のため活動されています。未経験ながら消防ラッパ隊の隊員不足を補うため隊に加入し、新たな挑戦を続けています。また、共に活動していた隊員の千尋さんと結婚し、夫婦で地域防災に尽力しながら、若い世代の模範となるよう、地域の連携を大事にする心温まる活動を続けています。



うちの団のPR



市民の安心・安全のために、 あらゆる災害に対応できる 組織づくりを目指して

熊本県 上天草市 上天草市消防団 団長 山辺 満

上天草市消防団では、令和7年度の活動テーマを「市民の安心・安全のためにあらゆる災害に対応できる組織づくり」と掲げ、組織体制の見直しと団員の技能・知識の向上を柱とした取り組みを進めています。コロナ禍による活動の停滞や人口減少の影響により、団員数の確保が難しくなる中、消防団としての使命や機能を今一度見つめ直す必要があると感じています。

その背景には、団員の高齢化や後継者不足による消防技術の低下、災害対応力のばらつきといった課題があり、これらを克服するための改革が急務となっています。そこで本団では、月次点検項目の共通化をはじめ、装備・資機材の統一的な管理と点検体制の確立を図り、組織全体の底上げを目指しています。また、機能別団員の定年規定の見直しや新基準活動服への移行など、制度・装備両面から団員の士気向上と活動環境の改善に取り組む予定です。

中でも特に力を入れているのが、「全団員が小型動力ポンプを操作できる体制づくり」です。これは、現場における初期対応の迅速化を目的とし、誰もが的確にポンプを扱い、素早く初期消火活動を行えるようにするものです。分団ごとの技術差を解消し、団員の誰もが現場で即戦力として動けるよう訓練体制を構築していきます。

今後も、市民の命と財産を守るという使命のもと、信頼される消防団を目指して、団員一丸となって組織の充実と地域防災力の強化に取り組んでまいります。



消防団の広場

和歌山県

～「地域防災の要」として～

和歌山市消防団
団長

青木 秀行

皆さん、こんにちは。私は和歌山市の消防団長 青木秀行と申します。

まずははじめに、和歌山市の街を少しご紹介させていただきます。

和歌山市は、紀伊半島の北西、「紀の川」の河口側に位置し、瀬戸内海の一角を占めており、緑あふれる豊かな自然と、黒潮がもたらす温かな気候に恵まれ、四季折々の美しい自然が楽しめ、特に春の桜や秋の紅葉が魅力ある街です。

また、和歌山市は、古くから交通の要衝であり、紀州藩の中心地として栄え、歴史的な建造物や文化財も多く残っています。特に重要文化財に指定されている和歌山城は、美しい天守閣と広大な公園が魅力で、紀州徳川家に由来する祭りや、地元の伝統的な行事が行われています。

和歌山市は、歴史や自然、文化が融合した魅力的な都市であり、観光や地域活動が盛んな地域となっていますので、一度足を運んでいただきたいと思います。

次に、和歌山市消防団の活動や取り組みについて紹介させていただきます。

私たちの消防団は昭和23年3月に設立され、1團27分団1,081名からスタートし、現在は1團42分団1,469名（内女性団員87名）が在籍しており、火災などの災害発生時には迅速に動出し、消火活動や救助活動を行うのはもとより、地域住民への火災予防の啓発活動や定期的な災害対応訓練を実施し、また地域での自主防災訓練に積極的に参加し、自主防災組織との連携や地域住民との防災対策の確立に取り組んでいます。

また、新たな取り組みとして次の2つの事業を開始していますので紹介させていただきます。

①消防団車両広告掲載

民間企業と自治体と消防団が連携して地域の安心・安全を支援し、地域防災力の強化を図る取り組みとして、消防団車両の側面ドア部分に企業広告の掲載を令和5年10月1日から開始しています。



②和歌山市消防音楽隊応援スポンサー

機能別消防団員と消防吏員で構成する和歌山市音楽隊の応援スポンサーとしてご支援いただける企業様・個人様を募集し、令和7年4月1日から消防音楽隊応援スポンサー事業を開始しています。



次に、現在の課題としましては、全国的に若年層を含めた消防団員の減少により、消防団の存続が危ぶまれている中、さらなる入団促進が必要となっています。

和歌山市消防団も、この状況を開拓するため、消防団公式Instagram、YouTube、TikTokを開設するなどSNSを活用した広報の強化に努めていますが、さらなる効果的な広報として動画編集等の技術を持った団員によるクラブチーム「広報デザイン部」を結成し、消防団のイメージアップや活動を幅広い方々に知っていただくため、動画作成からSNSでの発信までの一連の活動を担っていただいているます。

以下のSNSにアクセスしていただき、団員たちの作品をぜひ視聴していただけたらと思います。↓

消防団 YouTube 消防団 Instagram 消防団 TikTok



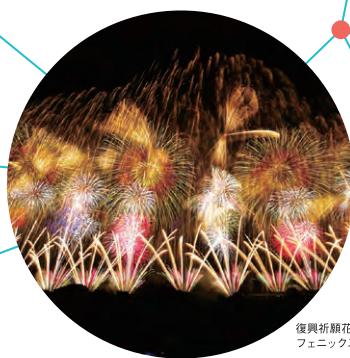
最後に、私たち消防団は「地域防災の要」となり、地域住民の皆様と連携し、安心して暮らせる地域づくりに全力を尽くしてまいります。



ぼうさいこくたい 2025 in 新潟

語り合い 支え合い

～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～



防災推進国民大会(通称　ぼうさいこくたい)は、内閣府等が主催し、産学官民の関係者が日頃から行っている防災活動を発表し、交流する日本最大級の防災イベントです。2016年から開催しており、2025年(第10回)は、新潟県新潟市で開催します。新潟県は、2004年中越地震等を経験しており、その経験や教訓を次世代に伝え、将来の災害に備えます。

詳しくはWEBサイトで!

ぼうさいこくたい 検索 

防災推進国民大会 2025 in 新潟

日程 2025年9月6日(土)・7日(日)

9月6日(土) 9:00～(オープニングセッション) 10:30～18:00 (その他出展)
9月7日(日) 10:30～17:30 (クロージングセッション以外は 16:00まで)

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

*新潟駅から路線バスで約15分(佐渡汽船行「朱鷺メッセ」バス停下車)

※新潟駅から徒歩約20分

本社車場の施設が予想されますが、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

防災推進國民大會 2020美行
(由民間、財團機構及團體合辦)

協力 新潟県・新潟市

お問合せ ぼうさいこくたい 2025 運営事務局 tel 03-6277-6276 (平日 9:30~17:00) (e-mail) bousaikokutai2025@toiawase.info



にいがた防災産業展

2025年9月6日(土)・7日(日) 朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター 展示ホールB

新規コンペション
※その他同時開催イベントあり

&

コンテンツ

火山防災の日啓発イベント

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

2025年度 全国統一防火標語

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

令和7年9月・10月の日本消防協会関係行事

9月6日(土)～7日(日)	ぼうさいこくたい2025 in 新潟（新潟県新潟市）
9月10日(水)(午前) (午後)	全国消防殉職者遺族会理事会 正副会長会議、臨時理事会 全日本消防人共済会中間監事監査・理事会 第44回全国消防殉職者慰靈祭（ニッショーホール） 「地域総合防災力の発揮」大会（ニッショーホール）
9月11日(木)(午前) (午後)	全国少年消防クラブ交流大会（広島県広島市） 消防育英会臨時理事会
9月13日(土)～14日(日)	日中消防定期協議会（北京）
9月24日(水)(午後)	第26回全国女性消防操法大会激励交流会（神奈川県横浜市）
10月中旬	第26回全国女性消防操法大会（神奈川県横浜市）
10月27日(月)	
10月28日(火)	

編集後記

編集担当、TKです。先日、蓮の花の写真を撮りに長野県へ足を延ばしました。水底の泥中に根を張り、水面より高く茎を伸ばして涼と咲く蓮の花。試練を土台にして美しい花を咲かせるその姿に、明日への勇気をもらうのは私だけではないはずです。

今回は機関誌「日本消防」の制作過程を御紹介したいと思います。

まずは、各都道府県消防協会を通して全国の消防団から毎月沢山の原稿が届けられます。執筆者の消防への思いの詰まった、大切な原稿です。編集担当で一旦内容を確認させていただいた後、印刷業者へ出して初稿を作り、再び各都道府県消防協会を通して校正確認を行います。文章や写真、執筆いただいた方のお名前に間違いがないかなど、細心の注意を払い仕上げて行きます。最終的に執筆者と編集担当の双方で内容に間違いがないことを確認し、校了となります。

ぜひとも全国の消防団の記事に目を通して頂き、皆様の地域の消防活動に役立てていただければと思います。当協会の記事や総務省消防庁の記事なども、最新の消防ニーズに対応した内容となっております。

暑さが続き、食欲も落ちがちな季節です。生姜や大葉などの香味野菜や、香辛料を使った料理で食欲を引き出してみてはいかがでしょうか。冷たいものに偏らず、温かい食事や常温の飲み物で胃腸を優しくいたわりながら、夏を元気に乗り切りましょう。次号もぜひお楽しみに。



購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けしています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十八巻第八号
令和七年八月五日印刷
令和七年八月十日発行

編集人 米澤健
発行所 (公財)日本消防協会
印刷所 東京都港区虎ノ門一丁九一十六
電話 ○三(623)九四〇一(代)
株式会社アイネット
電話 ○三(354)五六〇〇

令和
年
月
日
月
日
行
行

日本
消
防

第七十八卷第八号

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金 補償倍率UP 300倍から 750倍へ

まさかの時お役に立ちます。
掛金25口、2,500円(56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い **1500倍補償**

B型火災共済 消防団 毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。
落雷の損害にも対応!! 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。

お支払対象

- 火災共済金 火災・落雷・爆発・破裂
- 風水雪害等共済金 風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等
- 地震等災害見舞金 地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822
詳しくはホームページをご覧ください <https://www.shouboujin.or.jp/>



消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%)、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一萬円(ゆうちょ
銀行は五千円)から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金(6種類)又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金(脱退一時金)
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

(パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先)
公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

(公財)日本消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号
TEL.(03)6263-9401 (代表)
<https://www.nissho.or.jp>